第61回

北海道矯正管区教誨師研修大会

記　録



期　日　令和7年11月5日(水)・6日(木)

場　所　ANAクラウンプラザホテル千歳

主　催　公益財団法人全国教誨師連盟
北海道矯正管区教誨師連盟

第61回
北海道矯正管区教誨師研修大会

■ 研究主題 ■

「アップデートする教誨」

■ 副　　題 ■

「いのちの尊さに目覚める教誨」



第61回 北海道矯正管区教誨師研修大会　　令和7年11月5日　於 ANAクラウンプラザホテル千歳

大会宣言文

私たちは、千歳市において、第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会を開催するにあたり、主題を「アップデートする教誨」とし、副題を「いのちの尊さに目覚める教誨」として、真摯に学びを求めることとしました。

本年６月から拘禁刑が開始され、各矯正施設においては、被収容者個々の特性に応じた再犯防止、社会復帰を目的としたプログラムが始まっています。それはまさに、被収容者と社会、人間との繋がりを再構築していこうとするものであり、そうした中で私たち教誨師が担う役割もより大きくなっていくのではないでしょうか。

人間関係の希薄化が叫ばれ、迷い、手探りで生きていく社会の中で、被収容者の過ちの奥にある苦しみや悲しみに触れ、人として生きなおす道を照らすこれからの宗教教誨の在り方が今問われています。

私たちは、今回の研修大会を通してお互いの情報や経験を共有し深めあう場をともにすることができました。

本大会は、私たち教誨師が、被収容者の中にある光を信じ、関わり続けていく教誨師の使命を再確認し、今回の学びを機縁として、今後より一層自らの研さんに努めていくことをここに宣言いたします。

令和７年１１月６日

第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会参加者一同

目　　次

第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会実施要綱……1

式　　典

開式の辞……2
大会委員長　阿　部　正　信

式　　辞……3
大会長　植　川　達　郎

メッセージ……5
公益財団法人全国教誨師連盟総裁　大　谷　光　淳

被表彰者名簿……7
北海道矯正管区長表彰
北海道矯正管区教誨師連絡会長表彰

被表彰者代表者謝辞……8
千歳教誨師会　本　村　忠　一

祝　　辞……9
法務省矯正局長　甘　粕　邦　彦
北海道矯正管区長　塩　島　かおり
公益財団法人矯正協会会長　藤　本　哲　也

歓迎の辞……15
千歳市長　横　正　隆　一

祝電披露……17

閉式の辞……18
大会委員長　阿　部　正　信

記念講演……19
講　演　題　「加害者になる前に被害者だった」
―奈良少年刑務所　絵本と詩の教室―
作　家　寮　美千子

研究発表……40

「刑務所内における葬儀式の意義と課題～人と共に生きて～」
札幌刑務所教誨師会　須　賀　興　人

「私の教誨」
函館少年刑務所教誨師会　内　田　誠　司

「心満たしめる教誨を」
千歳教誨師会　木　村　恵　一

総　会

開会の辞……52
大会長　柏　川　法　潤

大会宣言文……53
千歳教誨師会　宮　本　正　尊

次回大会開催地代表挨拶……54
月形刑務所教誨師会会長　永　利　敏　彦

閉会の辞……55
大会委員長　阿　部　正　弘

名　簿

来　賓……56

管区・施設職員……57

大会役員・実行委員……58

教誨師……59

物故者……61

第６１回　北海道矯正管区教誨師研修大会実施要綱

１　名　　称　　第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会

２　目　　的　　教誨活動は、長い歴史の中で、矯正施設と連携・協力し、被収容者の改善更生や社会復帰に資する様々な活動を行ってきました。令和７年６月からは、懲役刑・禁錮刑から拘禁刑に移行し、これまで以上に被収容者の改善更生や社会復帰に向けた活動の充実化が求められています。こうした時代の要請に応じたアップデートする教誨について、ここに、全道の教誨師が一堂に会して研究討議を行い、これからの教誨活動の在り方を求めるものとします。

３　研究主題　　主題　「アップデートする教誨」
副題　「いのちの尊さに目覚める教誨」

４　主　　催　　公益財団法人全国教誨師連盟
北海道矯正管区教誨師連盟

５　後　　援　　公益財団法人矯正協会
北海道
千歳市
恵庭市
北海道新聞千歳支局
北海少年院篤志面接委員会
藍明女子学院篤志面接委員会
北海少年院・藍明女子学院篤志面接委員後援会

６　期　　日　　令和７年１１月５日（水）　午後２時から午後５時まで
令和７年１１月６日（木）　午前９時から午前１１時３０分まで

７　会　　場　　ＡＮＡクラウンプラザホテル千歳　２階「千歳の間」
〒０６６-８６３７　北海道千歳市北栄２丁目２番１号
TEL.０１２３－２２　２３１１

８　参加者　　北海道矯正管区教誨師連盟会員
関係機関職員

式　　典

開 式 の 辞



大会委員長（千歳教諭師会会長）　阿　部　正　信

ようこそ、千歳の地へ。

ただいまより、第６１回北海道地区管区教諭師研修大会を開催します。

式　　辞



大会長（北海道矯正管区教誨師連盟会長）　**柏　川　法　潤**

本日ここに、第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会を開催するに当たり、大会長として一言御挨拶を申し上げます。

御来賓の皆様には平素より私どもの教誨師の活動に深い御理解と御支援を賜り、また本日は御多用にも関わりませず御臨席を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

矯正関係の皆様には、宗教教誨活動の運営につきまして、常々御指導と御協力を賜り、本大会の開催に際しましても、塩島かおり北海道矯正管区長様を始め、各施設長の皆様並びに多くの関係職員の御参加をいただきましたことに心より厚く御礼申し上げます。

そして、教誨師各位におかれましては日頃の本務に加え、宗教教誨に並々ならぬ情熱を持って御奉仕をいただいておりますことに敬意と感謝を申し上げます。併せてこのたび各種表彰をお受けになる皆様に心からお祝い申し上げますとともに、長年にわたる御尽力に対し、感謝と敬意を表します。

さて、最近の矯正状況を概観いたしますと、矯正施設の収容人員は、全体的に漸減傾向ではありますが、個々の特徴としましては高齢受刑者の割合が増加傾向にあります。また、薬物乱用等による精神障害を有する者、外国人被収容者、発達障害や虐待された経験を持つ被収容者といった処遇に特別な配慮を要する多様化した被収容者がますます増加し、特性に応じた処遇を行う難しさが増していることかと思います。また、受刑者の社会復帰への改善更生を期待する中に大きな制度変更が行われ、本年６月より拘禁刑として施行されました。このような矯正施設状況の移り変わりの中、私たちは現状に応じた教誨活動を模索するものであります。そして、昨今より「対話」という改善指導への教誨師の参加を促されていることでもあります。

どうか、本日参加下さいました教誨師の皆様には、今後ますます矯正施設の方々と連携を密にし、本大会のテーマであります「アップデートする教誨」を進め、実りある教誨活動に邁進されますことを念願する次第です。

おわりに、御家族を喪われました御夫妻皆様の御健勝を衷心祈念いたしますと共に、今後とも変わらぬ御指導と御協力をお願い申し上げます。

また、本研修大会のため矯正管区、矯正施設から御指導を賜りましたこと、特に北海少年院・崇明女子学院の職員、並びに地元教誨師の皆様には本大会の企画運営に当たり、御尽力いただきまして深く感謝を申し上げ、大会長の式辞といたします。

メッセージ



公益財団法人全国教誨師連盟総裁　大　谷　光　淳

（公益財団法人全国教誨師連盟副理事長　吉　川　孝　介　代読）

本日ここに、「第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会」が開催されるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

まず初めに、昨年１月１日に発生した「令和６年能登半島地震」、昨年９月の「大雨災害」、本年、北海道各地を襲った豪雪による災害などで犠牲となられました方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早く生活を再建され、平穏な日常に戻られますことを願っております。

さて、このたび表彰をお受けになる皆様に心からお祝い申し上げますとともに、長年にわたる御尽力に対し、感謝と敬意を表します。

平素から宗教教誨活動に対しまして深い御理解と温かい御支援を賜っております御寄附の皆様方、並びに当連盟の運営に御支援、御協力を頂いております矯正関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。

世界では、ロシア連邦のウクライナ侵攻、ようやく解決の糸口が見えたイスラエルのパレスチナ・ガザ地区への侵攻は未だに終わらず、子供を含めた多くの民間人が犠牲となっています。一刻も早く平和的な解決がなされ、ウクライナ・パレスチナ・ガザ地区に再び平和が訪れることを願ってやみません。

日本の矯正施設の収容人員は、全体的に減少傾向にありますが、少年院在院者や未決拘禁者は増加傾向にあります。個々の特徴としては、高齢受刑者の割合が増加傾向にあること、薬物乱用等による精神障害を有する者、外国人被収容者、発達障害や虐待された経験を持つ在院者といった処遇に特別な配慮を要する多様化した被収容者がますます増加し、

特性に応じた処遇を行う施設職員の皆様の御苦労は計り知れないと考えています。

施設では、認知行動療法など科学的根拠に基づくプログラムで改善指導が行われ成果を上げています。そこに宗教的視点に基づく教誨を行うことで、頭と心に対して働き掛け、人は救われ更生復帰を果たすことができるのではないでしょうか。

最近の矯正と教誨師をめぐる状況を概観いたしますと、教誨師は不適正処遇早期発見のための協力を求められています。また、犯罪被害者等の心情等の聴取伝達制度では、実施する矯正職員のメンタルケアへの協力を求められています。

さらに、昨今始まった「対話」という改善指導への教誨師の参加を促されています。矯正施設からの協力要請に対してはできる限り対応したいと考えています。

本年6月1日から拘禁刑が施行され、矯正施設における矯正処遇をめぐる環境が大きく変化しました。

しかし、教誨師の責務の重要性が変わることはありません。そしてその責務を遂行するためには、教誨の歴史と伝統を踏まえ、日々変化し続ける社会状況に即応した教誨活動を進めることが肝要です。これからの時代における教誨活動の意義と役割を再発見することが求められていると考えられます。

今研修大会が、そのような視点から全国の統一テーマ「アップデートする教誨」サブテーマ「いのちの尊さに目覚める教誨」として実施されますことは誠に時宜を得たものであります。

この度の研修会がまさに「アップデートする教誨」の起点となる実り多きものになることを期待いたします。本研修大会に参加いただきました教誨師の皆様に心より感謝申し上げます。また、今回のサブテーマ「いのちの尊さに目覚める教誨」の趣旨を理解され、日々の見識をより高めるとともに、今後の教誨活動へ新たに期待される事柄を見出すことに配意していただきますようお願い申し上げます。

矯正関係機関の皆様には、これまでの御協力に感謝申しあげますとともに、どうか今後の教誨活動の充実のためにも引き続きお力を添えていただければと願っております。

最後に、お集りの皆様方にはくれぐれも御自愛に努められ、御健勝に過ごされるよう念じ上げ、私の挨拶といたします。

令和7年11月5日　公益財団法人全国教誨師連盟総裁　大谷光淳　代読

被表彰者名簿

（敬称略）

北海道矯正管区長表彰（8名）

札幌刑務所教誨師会	高垣　晶敬
旭川刑務所教誨師会	伊藤　孝順
帯広刑務所教誨師会	八重柏　新治
帯広刑務所教誨師会	樋口　潔
月形刑務所教誨師会	平井　貞治郎
月形刑務所教誨師会	水谷　亮
函館少年刑務所教誨師会	山口　礼雄
千歳教誨師会	木村　恵一

北海道矯正管区教誨師連盟会長表彰（7名）

札幌刑務所教誨師会	高垣　晶敬
旭川刑務所教誨師会	伊藤　孝順
帯広刑務所教誨師会	八重柏　新治
帯広刑務所教誨師会	樋口　潔
月形刑務所教誨師会	水谷　亮
月形刑務所教誨師会	中田　大信
千歳教誨師会	木村　恵一

被表彰者代表者謝辞



千歳教誨師会　木　村　恵　一

受賞者を代表いたしまして、一言お礼の言葉を述べさせていただきます。

本日ここに、御来賓の方々及び関係の皆様方の御臨席をいただいて、表彰の式典を催していただきましたことは、身に余る光栄であり、心から感謝を申し上げます。この賞に恥じぬよう、今後においても更に研鑽、精進を重ね、様々な宗教教誨活動を通じて被収容者の改善、更生等、円滑な社会復帰に尽力してよいる所存にございます。

甚だ簡単ではございますが、お礼の挨拶とさせていただきます。

祝　　辞



法務省矯正局長　日　笠　和　彦
（北海少年院長　平　原　政　直　代読）

北海少年院長の平原と申します。法務省の日笠矯正局長でございますが、公務により御来場いただくことがかないませんでしたというところ、私のほうで御祝辞をお預かりしておりますので、代読をさせていただきます。

第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会が開催されるに当たりまして、一言お祝いを申し上げます。教誨師の皆様方には、平素から矯正施設における被収容者の信教の自由を保障するとともに、その改善更生のため、献身的に御協力いただいておりますことに対し、この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、刑事施設におきましては、本年６月１日をもって、拘禁刑を新たに導入する改正刑法等が施行され、その一歩を踏み出しました。拘禁刑創設の趣旨は、受刑者の特性に応じた処遇を実施し、その改善更生を図り、再犯防止を推進することであり、当局においては、この趣旨を踏まえ、刑事施設における受刑者の集団編成を見直し、高齢や障害などといった特性等に応じた基本的な処遇類型である矯正処遇課程を２４種類設け、きめ細かい矯正処遇を行っていくこととしました。これに加えて、作業の再構築、改善指導・教科指導の充実、外部の関係機関等と連携した社会復帰支援等、新たな施策を多岐にわたって実施していきます。これらの取組を進めるに当たっては、効果的に矯正処遇等を実施するための組織体制の見直し、職員の意識改革なども併せて行ってきたところであり、その安定的な定着には時間を要するものと考えておりますが、矯正施設においては、こうした法改正に期待する社会からの要請にしっかりと応え、新たな被害者が生まれることを防止し、安全、安心な社会の実現のため、引き続き受刑者の改善更生や社会復帰に向けて、一層効果

的な被収容者処遇を実現する責務があり、これらの取組をしっかりと進めてまいります。

また、少年院においては、本年6月で新たな少年院法が施行されてから１０年を迎え、併せて特定少年の特例が設けられてから3年が経過しました。これまで蓄積してきたノウハウを踏まえながら、時代のニーズに応じた矯正教育、社会復帰支援を進めてまいります。

刑務所の導入をはじめとする新たな取組は開始されましたが、皆様に御協力いただきたいことの本質は変わるものではなく、矯正施設の身近な民間協力者である教誨師の皆様方の御活動が必要不可欠であることに変わりはございません。皆様の豊富な御経験、高い見識に基づく活動は、被収容者が自らの犯した罪や被害者に対する懇悔に向き合い、真の更生を果たすために欠くことのできない、極めて重要な取組でございます。

引き続き、教誨師の皆様方の御協力を得ながら、矯正施設における被収容者処遇の充実を図ってまいりますので、今後とも変わらぬ御理解と御支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

結びに、本日ここにお集まりの皆様方の御健勝と御活躍を心からお祈り申し上げまして、私の挨拶といたします。

令和７年１１月５日　法務省矯正局長　日笠和彦　代読

祝　　辞



北海道矯正管区長　塩　島　かおり

本年４月に着任をいたしました、北海道矯正管区長の塩島と申します。御挨拶が大変遅くなり、申し訳ございません。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、第81回北海道矯正管区教誨師研修千歳大会の開催に当たりまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。教誨師の皆様方には、平素から矯正行政に深い御理解と御支援を賜り、宗教教誨を通じて被収容者の改善更生に向けた、献身的な活動を続けてくださっていることに改めまして感謝を申し上げますとともに、宗教教誨活動の発展のため、本日このような研修大会を開催し、研鑽を積まれていらっしゃることに心から敬意を表します。

さて、矯正の現状につきましては、先に御挨拶をくださった皆様方のお話にもあったとおりでございます。その他、例えば、再犯防止や社会復帰の観点から、デジタル化、データ連携を含む、矯正行政、更生保護行政の基盤整備等を進めております。

こうした様々な変化の中で、教誨師の皆様の役割は、単に宗教的支援にとどまらず、被収容者の心に寄り添い、施設内外の橋渡し役としてますます期待をさせていただいているところでございます。宗教教誨は、被収容者に精神的救済や心情の安定をもたらし、自らを省みるきっかけを作ること、また、宗教の心を通じて、特性や社会性の対応を図り、健全な人格形成を促すなど、その重要性は増しておりますので、引き続き一層の御理解と御支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

本大会では、管内の教誨師の皆様が一堂に会され、「アップデートする教誨」をテーマに、宗教教誨における研究発表が行われると伺っております。本大会が日頃から取り組まれている教誨活動につきまして、知見を交換し、連携を深める絶好の機会となることを

願っております。そして、被収容者一人一人が希望を持って改善更生に向けた歩みを進め、豊かな社会復帰を果たすこと、そのための支え手として、教誨師の皆様方が今後も力強く寄り添ってくださることを心から期待をさせていただいております。

最後になりますが、大変お忙しいところ御臨席を賜りました御来賓の皆様、及び本大会の開催に当たり、準備に御尽力をくださった皆様方に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、北海道矯正管区教誨師連盟のますますの御発展を、そしてここに御参列の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。ありがとうございます。

祝　　辞



公益財団法人矯正協会会長　藤　本　哲　也
（北海道矯正管区少年矯正部長　曽　和　　浩　代読）

北海道矯正管区少年矯正部長の曽和でございます。本日は矯正協会会長の御挨拶，御祝辞を代読させていただきます。

本日ここに，第６１回北海道矯正管区教海師研修与談大会が開催されるに当たり，　　お祝いの言葉を申し上げます。はじめに，現在，北海道矯正管区管内では，約１４０名の教誨師の皆様が各矯正施設において宗教教誨を通じて被収容者の心情の安定など，改善更生に向けた献身的な活動をお続けでおられると伺っており，その御苦労に対し，まずもって深く敬意を表します。また，本日長年にわたる宗教教誨という困難かつ重要な教海事業に尽くされた御功績により，表彰の栄誉に浴された皆様に対しまして，心からお慶びを申し上げます。

さて，本日は「アップデートする教誨」というテーマの下，宗教教誨における研究発表が行われると伺っており，皆様な知見を養う上で，誠に意義深いものと存じます。教誨活動は被収容者の宗教的情操をかん養し，その心情に安らぎをもたらすなど，矯正職員の直接的な関与が難しい分野を支えていただいており，被収容者の願いや思いに寄り添いつつ，その立ち直りを支援することで，改善更生および円滑な社会復帰に大きな役割を果たしているものであり，時代の変化とともに社会から求められる期待は今後さらに大きくなるものと思われます。本研修大会の成果が，今後の皆様方の活動に反映され，より一層の充実，発展をもたらしますことを，心からお祈り申し上げます。

私ども矯正協会は，矯正に関する学術の発展と普及啓発を図るとともに，矯正行政の運営に協力し，犯罪及び非行の防止に寄与する事業を行っております。このような場にお

る我々としましても、宗教教誨を通じ、矯正活動に協力されている教誨師の皆様に深く感謝申し上げるとともに、引き続き全国教誨師連盟共々、矯正行政の支援に努めてまいりたいと考えております。

最後になりますが、北海道矯正管区教誨師連盟のますますの御発展と、ここに御列席の皆様の御健勝を祈念いたしまして、私の祝辞とさせていただきます。

令和7年11月5日　公益財団法人矯正協会会長　髙本哲也　代読

歓　迎　の　辞



千歳市長　横　田　隆　一
（千歳市副市長　品　田　雅　俊　代読）

千歳市副市長の品田でございます。本日横田市長が公務により出席が叶いませんことから、私が代わって一言御挨拶を申し上げます。

本日は第６１回北海道矯正管区教誨師研修大会、このように多くの方々の御参集の下、本市にて開催されますこと、心からお慶びを申し上げますとともに、地元市として御歓迎を申し上げます。また、本日御出席の教誨師の皆様方におかれましては、日頃からそれぞれの地域等におきまして、被収容者の方々の更生、改善、並びに社会復帰などに御尽力、御支援をいただいておりますこと、この場をお借りして敬意と感謝を申し上げます。また、先ほど表彰を受賞された皆様方におかれましては、誠に受賞おめでとうございます。これまでの御功績に対して、心から敬意を表します。また、今後の更なる御活躍を御祈念申し上げる次第であります。

さて、現在の社会、経済情勢につきましては、国際的に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻ですとか、イスラエル・ハマスの戦闘等によりまして、大変不透明な国際情勢になっております。また、国内におきましても、能登半島地震を始めとした地震災害、また、線状降水帯や台風などによる各地での大雨災害、こういったことで、日本国内においても、災害が非常に多発している状況でございます。また経済情勢にも目を向けますと、物価の高騰ですとか、燃料の高騰等で市民生活も大変厳しさを増しておりまして、今後の先行きの不透明感についても、更に増している、こういう状況でございます。

こうした中におきましては、やはり人々の今後の希望、こういった更生について、非常

に皆様の活動というものが拠り所になると、このように感じているところであります。本日のこの研修大会では『アップデートする教諭』ということで、昨今の社会情勢に応じた様々な研修を行われると、このようにお聞きをしております。今回のこの研修の成果が、今後の皆様方の活動の一助となりまして、皆様の今後の様々な活動が、健全な意識や、また、思想、態度、そういったものが皆様に身に付き、また、順法精神が培われまして、安定した社会の実現につながっていく、こうしたことを期待しているところであります。

せっかく御招待の機会を頂戴いたしましたので、地元市として若干、市の御紹介をさせていただきますが、現在、本市につきましては、人口が約９万７０００人、新千歳空港と共に発展をしてきた町でございます。昨年におきましては、新千歳空港の旅客数が２，４８３万人ということで、過去最高を記録した、そういう状況にございます。また、令和３年２月には、国家的プロジェクトであります次世代半導体Ｒａｐｉｄｕｓ株式会社の進出が決定をいたしまして、様々な企業立地が始まっておりますとともに、市内におきましては、様々なホテルの立地、あるいはアパート、住宅の建設、こういったものは非常に旺盛で、町としては大きな転換点を迎えている、そういった町の状況となっております。

一方で、本市につきましては、国立公園支笏湖や千歳川など、大変、自然環境も豊かでございまして、市内に流れる千歳川には、この秋には大きく、鮭の遡上なども今、始まっているところでありまして、道の駅サーモンパーク、また、その横の水族館では、鮭のそうした風景が風物詩として見られる、そういう時期となっております。皆様方には、お時間が許せば、ぜひ千歳の魅力にも、こういった一端に触れていただければ幸いと存じます。

結びになりますが、本研修会が皆様方にとって、実りのある時間となりますことを御祝念申し上げますとともに、北海道函館管区、並びに教諭他の皆様方の今後ますますの御発展、また、御参集の皆様方の御健勝、御多幸を心から祈念をいたしまして、私からの祝辞とさせていただきます。

本日は開催、誠におめでとうございます。

令和７年１１月５日　千歳市長　横田　隆一　代読

祝電披露

「北海道矯正管区教誨師研修大会の御盛会を心よりお慶び申し上げます。本大会を通して宗教教誨の研鑽を図られますとともに、今後の教誨活動が充実されますことを念願いたします。」

真宗大谷派宗務総長　木越　渉

「大会の開催に際し心よりお慶び申し上げます。貴会のますますの御発展と、犯罪のない社会づくりに寄与されますことを祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。」

天台宗宗務総長　細野雄海

「第61回北海道矯正管区教誨師研修大会の御盛会を祝し、貴連盟のますますの御発展をお祈り申し上げます。」

東北矯正管区教誨師連盟会長　菊池了邦

（以下、電文は省略）

関東矯正管区教誨師連盟会長　川上宗勇

中部矯正管区教誨師連盟会長　槇　研治

近畿矯正管区教誨師連盟会長　和田宏之

中国矯正管区教誨師連盟会長　青木祥徳

四国矯正管区教誨師連盟会長　田村正教

九州矯正管区教誨師連盟会長　高原眞見

閉式の辞



大会委員長（千歳教諭部会会長）　阿　部　正　信

以上で、式典を終わりたいと思います。

記念講演

「加害者になる前に被害者だった」

～奈良少年刑務所　絵本と詩の教室～



作家　寮　美千子

講演に先立ち、「奈良少年刑務所（旧奈良監獄）の歴史」放映

こんにちは。今日はお招きいただきありがとうございます。ここで言っていたことの多くのことは、奈良少年刑務所は明治４１年に開設したんですけれども、それはなぜかというと、江戸時代の末期に安政の五カ国条約というのを結びまして、その中でいろいろ不平等な関税とか様々なことがある中で、領事裁判権というものを取られてしまいました。外国人が悪いことをしたときに日本の法廷で裁けないということで、これをぜひ撤廃してほしいというふうに頼んだんですが、当時あった日本の監獄というのは、非常に劣悪な状況でした。それは江戸時代の奉行所や牢獄をそのまま使っていたんです。床に穴が空いて、その下に壺が置いてあって、それが、トイレ。そこに何年も閉じ込められたりとかしていると。そういうところで御飯も食べなくちゃいけない。教誨師さんは御存じかとは思いますが、「臭い飯を食う」イコール刑務所に入ることですが、つまりそれは、御飯が雑穀混じりで臭いということではなくて、トイレのある部屋で御飯を食べなくちゃいけないということはトイレのなかで御飯を食べているような状態というのが刑務所なので、そういうゴハンになりました。当時は水洗トイレが当然なくて、本当に臭かったわけです。そういう状態のところに我が国民が収容されるのは人権問題だと。だから、ちゃんとした牢屋がな

いと領事裁判権を撤廃できませんと諸外国から言われました。それで明治政府は、だったら立派なものを作ろうじゃないかと。誰が見てもうなるぐらいすごく立派なものを作ってやろうというふうに思いっきり頑張って、当時３０代の山下啓次郎という建築技官を、ヨーロッパ２８カ国に派遣して、刑務所建築を学ばせ、また刑務所の意味、受刑者を劣悪な環境に置いて懲らしめるのではなく、人権を守る良い環境で社会復帰に向けて更生してもらうという意味を学んで帰ってきたというので、このように素晴らしい建築の建物が生まれたわけです。これ本当に素晴らしくて、過剰に素晴らしいくらいで、そこまでやる？っていう感じなんですけど、お寺の柱の上にあるような飾りが工場の柱の上にまであったり、鉄格子も平鉄のただの鉄格子じゃなくて、そこに春日山の模様とかが入った鉄格子が工場にあったり。

とにかく組部に至るまで本当に美しい刑務所でした。若い男の子、戦後は若い男の子たちがそこで５年とか１０年以上暮らさなきゃいけない、一歩も出られないという状況の中で、美しい建物、格調に優れた建物というのは少なからず心に影響を与えたのではないかと、私は感じております。そういうことで建物ができたと。設計者の山下啓次郎さんのお孫さんが、ジャズピアニストの山下洋輔さんなんです。御存じですか。グーって拳でピアノ壊しちゃうような過激な演奏もなさるお方なんです。私たちが「奈良少年刑務所を宝に思う会」という会を立ち上げた時には、建物はもう壊されるということが一応決定していました。予算さえ付けばいつでも壊しますよ状態になっていたのですが、いよいよ壊そうという話になり、翼を広えたときに、山下洋輔さんにお願いして、その会の代表になってもらったんです。山下さんのような有名人が代表になったということで、新聞とかテレビが大きく取り上げてくれて、町の人もたくさん来て、関心を持ってくれたことが端緒で保存活動が盛り上がりました。私たちは「美しい刑務所」という写真集を作りました。刑務所として稼働中の写真です。これは教誨師さんの部屋です。仏教徒、キリスト教徒、天理教徒。この３つのブースに分かれています。来てくださった教誨師の方のところだけカーテンを開けて、あとの２つはカーテンを閉めるという形でお話の場にする。ここ、とっても感じのいい部屋で、窓からの光が入って、落ち着く感じのすてきな部屋だったんですね。なぜかキリスト教が超簡素で仏教が超ゴージャスな感じなんですけど。山下さんのおかげで話題となり、奈良県議会、それからもちろん町の声、そういうところが保存要望書というものを出してくださり、さらに日本建築学会も保存を要望してくださったということがいろいろ重なって、はい、じゃあこれはやっぱり大切な日本の文明開化、西洋に肩を並べるために頑張った日本の記念碑的な建物であると。しかも、人権を守るために作られた先進的な建物であるということが認められました。

２０１４年に「奈良少年刑務所を宝に思う会」を立ち上げてから、わずか２年半で、国の重要文化財に決定しました。

でもそれよりずっと以前から私たちは、刑務所建築が素晴らしいということを、一般の人に分かってもらうために活動をしていました。刑務所の写真展を開くために法務省のOBを頼って、東京から建築専門の写真家を自腹で招き、写真を撮ってもらい、そしてその写真を大きく引き伸ばし、展覧会を開きました。赤レンガの町で開いたりとか、市役所のホールで開いたりとか、全国いろんなところで開きました。そして、奈良少年刑務所の矯正展でも毎年この写真展を開きました。一番面白かったものは、刑務官とか幹部の人たちが、「うわ、うちの刑務所ってこんなきれいだったんだ」ってびっくりするんです。毎日勤めてると気にしなくなっちゃうんですね。その素晴らしさというのが分からなくなっちゃって、それで無料で、絵はがきを配ったんです。刑務官の控室にどさっと置いておいたら、もうみんな持って帰って、あっという間になくなっちゃったっていうぐらい人気だった。そのような事情で、とにかく刑務所の建物の広報を、夫と２人で頑張りました。

話を少し巻き戻しますが、そもそも私が奈良に行ったのは、２００５年に長編小説『奈良の鳥－カルカッタ幻想曲』で泉鏡花文学賞をいただいたことがきっかけでした。それまでは童話とか絵本とか、子どもが主人公の小説を書いていたんですけども、初めて書いた大人が主人公の小説でいただいたのです。実は物書きが取りたがる賞として有名で、私よりあと、あとにですよ、瀬戸内寂聴さんがお取りになったという、そういう大きな賞だったんです。これならもう東京方面に住んでいなくても仕事はできるんじゃないかと。どこか自分の好きなところで残りの半生を送りたいと思ったのが５０歳のときでした。いろいろ候補地を考えたんですが、育ったのは千葉市なので当たり前だし、北海道とか東北は除外。あんまり雪のないところに引っ越そうということで、古い歴史がある奈良なんかいいかなと、おりあい漠然とした気持ちで奈良に引っ越したんです。

そこで、仏教や万葉集や古事記などを学んで、古代史をテーマにした小説なども書きたいなと、ぼんやりと思っていたんですが、なんとすごい建物があると。明治の赤レンガ建築だよという話を引っ越してすぐ、２００６年の７月に聞いて、そうなんだ、奈良ってお寺とか神社とかそればっかりじゃないの？レンガ建築なの？とびっくりして見に行きました。先ほどの映像で、最初のほうに興福寺や若草山が出てましたけれども、あれがだいたい、奈良市の旧市街を南北に横切る道なんですね。南北横切って、自転車で２０分ぐらいなんです。小さいんです、奈良の町って。自転車で行きました。坂道登ると突然、ここはどこの国ですか、どこの時代ですかみたいな、ドラえもんのどこでもドアからどっか行っちゃったみたいな感じの、レンガの建物があって。なかに入ってみたいなって言ったら、９月に週末婚がありますよと。で、９月を心待ちにして行ったのがきっかけで、刑務所で授業をさせていただくことになったんです。

今日は、教誨師さん、私よりずっと課先輩の方も多いと思います。実際に受刑者に面と向かっていろんなお話をなさって、長く長く続けられている大先輩の方々を前に、私のよ

うな、若造といってももう年ですが、今月の２３日で実はもう７０歳の誕生日を迎えちゃうんですけれども、その私が皆さんのお役に立つかどうかは分かりませんけれども、そこで体験したことが非常に私は、本当に世界観が変わるような驚きの体験をしたので、そのことについてお話しさせていただき、少しでも皆さまのお役に立つことがあればと思っております。よろしくお願いいたします。

それで、矯正展に行きました。建物素晴らしいです。外観をぐるって見て回る見学コースがあって、工場とかもありました。そうしたら、工場の刑務官の人が、ここでは安全第一にしています。効率とかそういうことをうるさく言うよりも、安全第一です。あの子たちはただでさえハンディキャップです。前科者だ、刑務所に入っていたなんて言えば、外へ出たときにやっぱり差別されます。そのときにうっかり、旋盤工とかの工場にいて、指でも切り落としたもんなら、ますます差別されちゃいますと。そういうことのないように、とにかく安全第一でやってますと。彼らにここで心を癒してもらって、外に行ったときに受け入れられるような、そういう人になってほしいという願いを、みんなが持って働いているのが刑務所というところです、というふうにお聞きしました。私がイメージしている怖い刑務官がひしひしやっているという感じでは、ちょっとなかったんで、その時点で少しびっくりしました。それから、講堂、体育館みたいなところに入れて、受刑者の作品展やクラブ活動の展示があったんです。クラブ活動も刑務所の中でやってるんです。絵が上面検査日の方や教誨師の方が、先生や講師になってくださったりして、これクラブ活動室です。書道ができたり、絵を描けたり、それから短歌や詩、俳句みたいなのを書く教室があったり、そういうことをやっている教室でした。ここもとっても感じのいい明るい教室でしたけれども、こういう教室があって、ちょっと見えないけど、奥のほうに美術室にあるような石膏像も置いてあったり、みんなが描いた絵が飾ってあったりとか、すごく感じのいい部屋でした。そういうところで作った作品が矯正展で展示されていました。

いろんな作品がありました。例えば、これです。これ、何に見えます？写真かなって一瞬思うでしょ。絵なんです。絵。少年が描いた絵です。美術クラブの少年が描きました。本当に丁寧にレンガの１枚１枚まで繊細に描いています。この場所に立った気持ちをまざまざと思い出すことができるような絵です。天井のしみまでそのとおりのものを描いています。このような繊細な作品がたくさん飾ってありました。また、文芸作品も本当に繊細でした。例えば、「振り返り　また振り返る　遠花火」、「夏祭り　腕の高より　腹かしな」、そんな作品がありました。皆さん御存じだと思いますけれども、刑務所の独房は、壁２枚の奥に水洗トイレ、それから洗面所があると、そして扉があって、頭の下にこれくらいの小さな窓があって、窓をパカッと開けてそこから食事を入れると。扉には内側にドアノブが付いていない、それは内側から開ける必要がゼロだからっていうところで彼らは住んでいるわけです。そして、窓は高いところに１つだけ。その小さな鉄格子がはまって

る窓があるだけ。そこで、「振り返り　また振り返る　遠花火」、「夏祭り　胸のざわめき　隠かしむ」、という、こんなセンチメンタルな詩を書いたのかと。奈良は刑務所のすぐ裏が若草山です。そこで花火を上げます。だから、音はお腹の底に響くくらいに聞こえます、必ず。そして、どこかの窓からは、花火の光がキラキラと見えたかもしれません。そういう中でこんな切ない詩を書いたのかなと思うと、胸がキューンとしました。何かイメージ違うぞと思ったんです。いや、少年院や少年刑務所にいる者は、私が少女時代にはやってた「あしたのジョー」の力石徹とジョーがほにほこ殴り合うみたいなすごい世界から来た人なんだと思っていたら、何だか繊細で優しいんじゃないの、どうなっちゃってるのというふうに話していたら、刑務所の職員の方が話し掛けてくださったんです。「そうなんです、皆さん誤解なさっていますけれども、今うちに入っている少年たちは、見るからに乱暴者とかそういう子はまずほとんどいません。むしろおとなしくて、引っ込み思案な子のほうが多いんです。」と。

この詩はぜひ声に出して読む機会を作ってあげてくださいというふうに、刑務官にお願いしたんです。きっといいことがありますからというふうに申し上げました。そして、名刺を渡しました。私は奈良に引っ越してきたばかりの作家なんですと言って。そう提案したきっかけは、ラジオの仕事でした。実はラジオのために１９９０年代に７年間６００編以上の詩を書いてきました。それは声にするための詩だったんです。その時、詩を書くだけじゃなく、活字で読むだけじゃなく、声にして読む。そして、それが耳から聞くということがすごく大事なっていうことを、とても感じたんです。その放送局Ｓｔ．ＧＩＧＡっていって、倒産してなくなっちゃったんですが、キャッチコピーは、『私はここにいます。あなたがそこにいてよかった。I'm here. I'm glad you're there.』でした。つまり、私がここにいますと声を挙げること、それに対して、あなたがそこにいてよかった、嬉しいなあって、そういう声が戻ってくること、反応が戻ってくること。これがどんなに嬉しいかというのを感じた７年間でした。今年７０歳になるのを機に、あのときに放送で共感消して消えてしまった作品を集めようと思って『水の時』『星の時』という２冊の詩集にまとめました。

また、ジャズの音楽と一緒に詩を読むコラボレーションの朗読会なども、東京時代に随分開かせていただきました。そういうこともあって、声にする詩ということはとてもイメージにあったので、詩を声に出す機会を作ってあげてくださいと、お願いしたんです。

それから１０か月後です。いきなり、奈良の少年刑務所から電話がかかってきました。「監獄法が改正になって、新しい教室を開くことになったのでその講師をしてほしい。」と。１００年変わらなかった監獄法が変わって、懲罰、懲らしめから教育に移ったとのこと。刑務所に入ってる人たち、いずれはとんと必ず出てくるわけです。社会に戻るわけです。そのときにちゃんと適応できなかったら、また追い詰められて犯罪者になっちゃうと。それは防ぎたいと。そのために、社会に適応できるような、そういう教育を施

したいというようなことで、それで、新しく社会性涵養プログラム。涵養っていう字はちょっと難しい字で、水源を涵養するの涵養、人格を涵養するの涵養で、じわじわと水が染みるように育てていくという意味です。社会性をじわじわ育てるプログラムというのをやりたいと。その中で、言葉の教室と、美術の教室と、ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）という、お芝居みたいなことをやりながらコミュニケーションを学ぶ3つの教室を開きたい。その中の文章の教室をあなたにお願いしたいです。」言葉の教室ですねって言われたんです、その時点ですごくびっくりして。確かに矯正展で協力しますって行った日と…。「それって私が受刑者に面と向かって何か授業とかするっていうことなんでしょうか。」って聞いたら、そうですっておっしゃるんです。私は教師の免状も何も持ってない、高卒ですから。大学夜間に2か月くらい行って辞めちゃったっていう根性なしで、何の資格もないです。そんな私にどうして、みたいな感じだったんですけれども、どうしてもお願いしたいと言うので。ええって。どんな罪の人が来てるんですかって聞いたら、「そうですね、うちの刑務所は強盗、殺人、レイプ、放火、覚醒剤などです。」って言われて、え、え、怖いーってなって。この目の前に座ってるこの子が殺人で、この子がレイプ犯、この子は放火したんだって、こっちは覚醒剤？みたいな。それは無理、怖い、無理って思ったんです。今にして思えば、それは差別意識でした。本当に物を知らなかった。実態が分からなかった。でも、そのときはすごく怖くなっちゃった。すると、向こうですぐに察して、「まあまあまあまあ、そうおっしゃらずに。」って、まだ何も言ってないのに、いきなり「そうおっしゃらずに。」ですよ。一度話を聞きに来てくださいと、刑務所内にっておっしゃるんです。そのときに、ピローンと電気がつきました。ということは、この前中に入れてもらえなかったあの刑務所の建物の中に入れるんだと。見られるんだということで「行きます、行きます、行きます、絶対行きますと。夫と2人で行ってもいいでしょうか。」と。結婚大好きな夫と一緒に行かせてもらうことになったのがきっかけです。

そこで、先ほどお話ししたように、加害者になる前に被害者だったっていう話を聞いたんです。この社会性涵養プログラムを立ち上げたのは、細木香子さんという奈良少年刑務所100年の歴史のなかで初めて女性として、管理職として赴任したという人でした。彼女は、長い間温めていた「社会性涵養プログラム」を。ようやくここに赴任してきて、チャンスだと思って開催することにしましたと。それで、宮先生を通してお願いしたいと思いましたって言うんです。何で私？って思うじゃないですか。いや、それはですねって。それまでずっと彼女は秘密にしてたんです。このことをしゃべっちゃうと、「いいことをしたい人たち」が育ってきちゃうって言うんです。いい人知ってると、言葉の教室だったら、ああいう先生がいるから呼んだら？こういう人が、偉い人がいるから呼んだら？とおわれちゃうと、それは違う。そうじゃなくて、もっと全然違う人を呼びたかった。言葉の専門家、美しい言葉、優しくて人に伝わる言葉、そういう言葉のことをよく

知ってる人を呼びたかったんだっていうふうに思ってお呼びしましたと。彼らは，加害者になる前に被害者であったような人生を送ってきたのですと言うんです。「私は，長い間ずっと少年の矯正教育に携わってきましたが，一人として，背後に困難な生育歴がないまま犯罪に及んだという少年は見たことがありません。必ず，何かの問題を抱えています。その問題とは，例えば虐待。これはもう分かりやすい。様々な形での親からの虐待。実際に殴られる，あるいは言葉で，お前なんか産むんじゃなかった，みたいなことを言われる，そういう虐待，あるいは，貧困。激しい貧困の中で育ち，親自体が，激しい貧困という困った状態から抜け出せない，社会の救済の手がうまく及んでいないと，そういう状態，そして，貧困の中でやけくそになって，お父さんがアルコール依存症になっている，お母さんをぶん殴るとか，お父さんいなくなっちゃってお母さんが１人でホステスか何かやりながら育てているんだけれども，あんまり家に帰ってこないで放置されてるとか，そういう様々な困難な状況があります。中には，親がろくに家に帰ってこないで，電気も止められちゃって，冷蔵庫は当然空っぽ。妹も，お兄ちゃんおなか空いたよ，おなか空いたよって言うから，よし分かった，お兄ちゃん何とかしてやるぞと，コンビニに行って，サンドイッチやおむすびを万引きする。で，捕まる。何度も捕まる。そのうちにお金も欲しくなって，おい，金出せってやったら，もう万引きの前科があるにもかかわらずコンビニ強盗という名前になって刑務所に送られてしまう，そういう緊急避難的犯罪。生きるためにしたような犯罪。そういう子もいるんです。

他にも，親が結構立派で，社会的地位も高くお金もある人の子ね，何割かは来ています。そういう子の多くは，教育虐待というのを受けているケースが多い。頑張りなさい，頑張りなさい，勉強できなきゃうちの子じゃありません。この塾に行きましょう。塾だけではなんだからスポーツ教室にも行きなさい。夏休みにはアメリカのキャンプに行きなさい。お休みの日は美術館にオペラに行きましょうみたいな，もうびっしり。それで，ちょっとでも成績が悪いと，何この成績は，うちの子じゃありませんってされちゃう，そういうような，期待されすぎて，縛め付けられすぎて，しんどくなっちゃって。そういう子たちは，小さいうちはすごい頑張って何とかなるんですけれども，中学高校になるともう息が続かなくなっちゃって，ある日突然学校に行きたくないと言い出す。行かなくなる。てこでも動かない。で，引きこもりになる。そこから家庭内暴力になる，あるいは，外に出ちゃって学校に行かないで不良行為に走る。そういうようなことで，結局犯罪ということにつながってきて，少年院や刑務所に来ている子もいます。」ということでした。あともう一つは，発達障害に関するお話でした。発達障害という名前が付いたのでやたら発達障害と言われる子が増えたというふうにお思いの方もいらっしゃるかもしれません。けれども，私あっちこっちで実際に学校の先生とかいろんな方に聞いてみますと，やっぱりパーセンテージが増えていると。普通学級でも，発達障害的な困難を抱えた子はやっぱ

りどうしても増えていると。理由はよく分からない。もしかしたら、添加物たの農業だのそういう関係もあるのかもしれない。公害とかもあるのかもしれないけど、ともかく増えてきちゃって、その発達障害のような子がいるためにクラス崩壊が起きたりとか、いろいろ困難な状況が日本中で今起きてるわけですけど、そういう子はみんなと様子が違うからいじめられちゃうんです。そのいじめが本当に心の傷になって、トラウマになって、しんどいことになっていくと。そして、ある日それが爆発してしまって、結果的に犯罪になる。私が聞いたお話のなかで、実際に刑務所にいた子で悲惨だったのは、すっごいいじめられていた子がいるんです。その子は、みんなからいじめられたけど、1人だけ友達になってくれた子がいたんです。その子だけが心の救い、その子がいるおかげで学校に行ける、そういう天使のような子がいたんですけど、ちょっとしたことで何か仲違いをしてしまったという。けんかをしてしまった。もうお前なんか知らないよみたいなことを言われてしまった。思い詰めた彼は、その一番天使みたいな子を刺して殺しちゃったんです。その子の刑務所内での成人式に行ったんですけど、成人式では1人ずつ挨拶をするんです、成人になる子どもたちがね。その子が、もうぼろぼろぼろぼろ泣いて、僕は生きてる価値がないと。僕のことを一番救ってくれた人をあんな目に遭わせて、死ぬんだったら僕が死ぬべきだった。彼を殺しちゃいけなかった。本当に申し訳ないって言って、本当に泣き崩れるようにしていました。

そのような、ともかくちょっとどうするのっていうような、悲惨な歴史を持った子たちが来ているんですと細水先生はおっしゃいました。「彼らは正しい愛情を受けたことがないから。心が荒野のように荒んでいる、凍りついた荒野に1人でぽつんと立っている。それが彼らの心の風景です。そのために、情緒というものが育っていない。喜怒哀楽、人を思う気持ち、そういうものが育っていない。そして、つらい気持ち。もうこんなの耐えられないよという気持ちを感じないようにするために、心の扉を閉めている。閉めると何が起こるかというと、嬉しいも楽しいも同時に入ってこなくなっちゃう。悲しいことは忘れられるけど、生き生きとした自分の気持ちというのは一切分からなくなっちゃう。そうすると何も感じない。感じない状態というのは、悲しいと感じて涙を流して、人にこんなことがあったんだよと話せるような状態に比べて、もっと苦しい、もっと苦しいものです。そういう状態に彼らはあるんです。だから、寝る前には、美しい言葉とか、優しい童話とか、詩とか、そういうものを通じて彼らの心の扉を開き、情緒を育てていただきたい。」と言われました。何言ってんだ、この人はと、私は思ったんです。そんな人を殺すところまで追い詰められた人間を、童話や絵本や詩みたいなやわなもので何とかできるのかって。できるわけないじゃないのって思ったんです。いったい授業って何回くらいできるんでしょうかねって聞いたんです。そしたら、「寝る前の授業は月に1回、全部で6回とか8回とかそれぐらいを考えています。」と。は？何言ってんのって。

無理でしょ、それ、絶対に…って思ったんです。私は高卒です。それでも日本の大学では先生になれるんです。非常勤講師で幾つかの大学に通ったんですけれども、そこで１週間に一コマ教室に行って大学生の授業を持っても、その子たちに目に見える変化が現れるのは半年くらいしてからでした。大学生に批評をとばしてるのに、何で個人攻撃始めるんだ、それは批評の言葉じゃないよっていうのを本当に分かってもらうのに半年かかったのに、そんな月に１回で６回とか８回とかで無理でしょうって思ったんです。でも、細水令子先生が、本当にどうしてもって熱望なさるんです。「あの子たちは、このまま外に出たら絶対にコミュニケーション取れなくて、絶対にまた追い詰められて、また刑務所に戻ってきてしまいます。それだけは何としても避けたいんです…」と。ともかく助けて…って、言える子にしてあげたい。何か嫌なこういう、あれを読んでこいよとか人から言われても、嫌です僕はしません、はっきり断られる子にしてあげたいと。せめてそこだけは何とかしたいと。だからよろしくお願いしますって頼まれたんです。私はそのときに思い出した人物がいました。それは、マザー・テレサさんです。今日キリスト教の方もいらしてますが、私はインドのマザー・テレサハウスに行ってボランティアをさせていただき、マザー・テレサさんにインタビューをさせていただき、日本の子どもたちへというメッセージも預かって戻ってまいりました。たぶんマザー・テレサさんが生前最後にインタビューを受けた日本人は私だと思います。本も書きました。「マザー・テレサへの旅・ボランティア・だれのため？」という本で学習研究社から出ています。そのマザー・テレサさんを思い出したんです。彼女は、まるで全世界の人類の一人一人が全部自分の息子と娘みたいな感じの方でした。被覆式という看護婦さんが資格取ったときの儀式で彼女の話を聞きましたけれども、本当に全部の人類一人一人が全部我が子のように思っている、巨大な母性の持ち主だなと思ったんです。そのマザー・テレサさんの匂いによく似たものを細水令子さんに感じて、圧倒されちゃったんです。それで、うっかりというか、思わずというか、分かりましたなんて言っちゃったんです。「分かりました。でもやっぱり怖い、すいません、私、大学で教えてるときに友に助手をしてもらっていたんですけれども、友と２人で来てもいいでしょうか。」と。１人で行くのが怖いからそう言ったら、もちろんです、大歓迎ですと、そんなお金とかは全然出ないのにいいんですかと言うから、いいです、いいです。で、２人で行くことにしたんですけども、いつからですかって聞いたら、じゃあ今月からお願いしたいんです。それはいいんですけど、いったい私は何を教えればいいんでしょうって聞くと、そしたらにっこり笑って、「宇宙先生のお心のままに。」って。それで困っちゃって、どうしようかって友と２人で考えたわけです。６回、最初のうちは８回とかあったんですけども、最初は宇宙論もやったりもしたんです。宇宙の始まりからここに私たちが生まれるまでにどんな変遷があって、私たちはみんな宇宙のどこかで光っていた星のかけらが今ここで私になって生きているんだよ、みんな星のかけらなんだよ、半分なんだよみた

いな話をして。「寮先生、原子核融合とかはちょっと難しかったですよね。でも、何だか知らないけど一生懸命教えてくれる人がいるっていうのは彼らもよく分かったみたいです。」と細永先生。受講生に感想を聞いたら、「刑務所に来てこんな話を聞けるとは思いませんでした。旧理科はよく分かりませんでしたが、ともかく集が星のかけらでできているということがよく分かりました。出たら、刑務所に入っている間に生まれた息子にその話をしてやりたいと思います。」と言ってもらいました。俺らばかだと思われてるから、難しい話なんかしても無理だろうって最初から思われてるみたいな、そういう感じだったんです。そういうこともやったけれども、結局落ち着いたのは、まず1回目にこの『おおかみのこがはしってきて』という絵本を読むこと。この本はこんな経緯で生まれました。私には『父は空　母は大地』という著書があります。アメリカンインディアンが、ちょうど日本が幕末のころに白人に侵略されて土地を明け渡したときに、チーフシアトルという酋長がしたスピーチを絵本にしたものです。そしたら帯広からオファーがあって、北海道の十勝発であの本みたいな本を作りたいんだと。ぜひ書いてくれって言われたんです。書いてくれって、いや私北海道の人じゃないから、北海道の人が書いたほうがいいと思いますって言ったんですけども、いや、どうしてもいっぺん北海道に見に来てくれって言われて、全然別の講演会とか企画してくれて、帯広に行っていろいろ取得されて、分かりました。書きますけど、帯広で、北海道で先住民って言ったらアイヌじゃないですかと。誰かアイヌの方を取りあえず紹介してくださいと。アイヌの民話とかを学びたいんでと言ったら、なんとそのグループは、JC、青年会議所のOBの会だったんです。お金持ちのボンの会です。一人としてアイヌの友達がいなかった。　人も。もう完全な階層社会。しょうがないので最初は図書館に行って、この間亡くなられた藤村久和先生、有名なアイヌの研究者にお目にかかったり、図書館の司書の方にお目にかかったり、それから郷土史の研究会員に会ったりとかしました。そのなかで藤村先生に推薦していただいた、おおかみの子が走ってきて氷の上でつるっと転んだっていうアイヌの早口言葉があるんです。ねえ、どうして転んだの？それはね、氷が薄いからだよ。でも、氷は溶けちゃうよね、どうして？それはね、お日さまが暖いからだよ。でも、お日様は雲に隠れるよ、それは雲が厚いからだよ、雲は風に流されるよ、それは風が強いからだよ。風は山にぶつかるよみたいな、そういうふうにとんどんどんどん続いていくというアイヌの早口言葉を原型として、それを絵本の形にまとめさせていただきました。これが私とアイヌの物語の関わりの第1弾です。北海道の道庁の推薦図書にもなったんですけれども。これを題材にしてみようと。

教室は、音の陸軍の建物を移築した、言ってみれば昔の小学校です。木の床で、黒板があって、教壇があってっていう、そういう教室でした。日当たりがよくて、春には桜が窓の外に咲いて、とてもすてきな教室でした。そこで机を丸く並べます。10人の生徒がやってきて、そこに女性3人教官が入ってくださいます。プラス細永先生が入ってくれた

り、見学者が入ったりします。１０人に対してこちらの指導者側は最低でも４人です。私と天と教官２人。これは絶対入ります。だから大変手厚い教室ですね。そして、その１０人はどのような１０人かというと、刑務所ベスト１０、来ます。どういうベスト１０かというと、落ちこぼれちゃう子たちなんです。作業所とかいろんなとこ行っても、みんなと同じように作業ができない。間違える。遅い。そして、会話ができない。会話かできないから、注意されて、先輩にそこ違うよとか言われても返事もできない。みんながイライラしちゃう。その子がいるせいで雰囲気が悪くなっちゃう。そういう困ったちゃんのベスト１０を連れてきます。教室に入ったときには驚きました。これで授業ができるのだろうかと思いました。先生の隣に座った子は、何か小さくなってもうガタガタガタガタ震えてるような状態です。その教官にできればしがみつきたいみたいな、幼児としては５歳児。幼稚園に行きたくないとお母さんの太ももにしがみついて、スカートの下に入っている５歳児。そういう感じの男の子。これが、きれいな顔をした、すらっと背の伸びた美しい男の子でした。そういう子が何でこんなにぶるぶる震えているのかと。やっぱり虐待ですよね。その隣で、逆に、俺様オーラ全開の子がいました。この子も、あとで分かるんですけれども、要は虐待を受けて言葉が出ないようになってるんです。言葉が出ないから、話し掛けられると困っちゃう。話し掛けられないように、お前らは俺に話し掛けるな怖いんだぞみたいな雰囲気をみなぎらせて、俺様ってやってるんです。その隣には、真っ暗な顔をしていて座ったっきり、声が出ない、対話ができない。そこだけ闇。本当に真っ暗っていう感じ。その隣になぜかへらへら笑っている。よく分からないけどへらへらへらへら笑ってる。気持ち悪いな、何笑ってるんだろうと思われちゃう。その子も実は、笑顔さえ浮かべていれば人から攻撃されないんじゃないかというふうに思って、それで笑顔を浮かべていたというような子です。あと、土の魂君と、悪いけれど、そういうあだ名を心の中で付けてしまっていた子がいました。この子は、ちょっと人間とは思えないみたいな、ドヨンとそこにいるだけで、ピー玉突っ込んがみたいな目をしていて、ボーって焦点合わないんです。誰の声も聞こえてないガラスのドームの中に入ってるんじゃないか、対話不能、そういう子ばっかりでした。これでいったい授業をどうするんだということを思いました。最初に絵本『おおかみのこがはしってきて』を題材にしました。

アイヌのお父さんと子どもの会話の形でお話が進みます。教官が鉢巻きとはっぴを持ってきたんで、何ですかと聞いたら、「アイヌのコスプレです。」ってちょっと全然違うんだけどなって思ったんですが、少しでも受講生を楽しませてあげたいという教官の気持ちに感銘しました。それで、アイヌの鉢巻きを２本、自分で縫って、アイヌの模様の服もヤフオクで買って、その次のクールからみんなに扮装もしてもらうようにしました。刑務所の子たちは、とにかく学校でもろくに発言しなかった、教室内徹底無。学芸会の主役とか絶対あり得ない。その子たちがお父さん役と子ども役で２人、前に立って朗読してもらうん

です。朗読してくださいって言うと、みんな目を伏せるわけです。教官が、今日はみんなに必ず1回は読んでもらおうと思ってるんだ。だから早くやったほうが、気が楽になるよっとかって、なだめすかしたりして、最初の2人が何とか決まります。そうすると2人が前に立ちます。机を片付けて、私たちは床の上に座ります。そして、こうやって上を見ているわけです、そうすると2人は超緊張するんです。全部ひらがなで書いた、本当にひらがなで書いた1行か2行、5行6行みたいな簡単なお話なのに、すごく緊張して緊張しまくって読むわけです、朗読って。そうすると見てる私たちも、うわあって思ってすごく緊張しちゃうんです。手に汗握るんです。最後まで行くと、よかったって思います、ほっとするんです、聞いてるほうも。よかったって、最後まで行ってよかったって、みんなで大拍手をします。初めて授業をしたその瞬間でした。いきなり変わるんです。いきなり何かが起きるんです。朗読した2人が、え？何が起きたの？って顔をする。どうでしたかって聞くと、いやあ、緊張したけど最後まで読めてよかったです。拍手をもらえて嬉しかったですって言うんです。それまで彼らは、駄目だ、なってない、本当にお前なんかっていつもマイナス評価。評価といえばマイナスしか受けてこなかったような子たちだったんです、それが初めてみんなが本気で自分に拍手をしてくれてると。この時に、え？っていう感じで、ちょっと閉じてた心の扉がちらっと開く感じ。ちょっとうれしくなる。自己否定感に満ちていた彼らの中に、かすかな肯定の感情が流れる瞬間なんです。それで、次、誰やりますか、次、誰やりますかってやっていくと、最初はおじけづいてたのに、授業の最後のほうになって、はい、はい、はいって手が挙がるんです。さっきはあんなに引っ込み思案で、みんなアウェーな感じだったのに、自分から手を挙げる？って思ってびっくりして。「いやでも、君はたった今やったばっかりだよね。」「先生、僕はお父さんの役をやらせてもらってませんから。」本当に、そこまで意欲的になるのか1時間半で、というぐらいの変化が見られました。驚きました。

次の時間も絵本で「どんぐりたいかい」をします。宮沢賢治の「どんぐりと山猫」という物語のなかで、誰が一番偉いのか競い合う場面があります。これを大会にして、収拾つかなくなるっていうお話にしてみた私の作品です。これを、長いのが偉いとか、大きいのが偉いとか、丸いのが偉いとか、かわいいのが偉いとか、みんな大騒ぎになるんですが、違う、そんなのは生まれつきだ、生まれつきなんか何にもよくない、大事なのは根性だ、根性で決めようって言うどんぐりがいて。それってどうやって決める？くるくる回って一番最後まで回っていたやつが偉いってことにしようというお話です。よーい、どんで、くるくる回りをするんですが、みんな目を回してバタバタと倒れたんで誰が一番か分かりませんでした。よーし、この続きは来年だとか言ってみんなで手を振って別れるという、大変ナンセンスなお話であります。この間は2人で演じましたが、これは全部で6人必要です。そして、みんなで声を合わせるところとか、自分のセリフのタイミングがあります。

こういうのが難しいわけです、彼らは。で、どうしたかというと、６人分の脚本をまとめて女と男で話が全部終わっちゃうように書き直しました。そして、これはのっぽくんの脚本ですが、のっぽくんがしゃべるところにはあらかじめ黄色い線を引いてあります。だいちゃんにはだいちゃんの脚本、全部その役どころの脚本を持って、黄色いところが来たら声を出せばいいというふうに工夫しました。それでもみんなと全然うまくいかない子たちで、最初は何だかタイミングも合わないし、バランバランで何だか格好がつかないんですけれども、１回、２回、３回と役を替えて繰り返しているうちに、覚えるんです、流れを。そしたらどんどんしゃべれるようになるわけですよ。タイミングも分かるようになるんです。そうすると楽しくなってくるんですね。自分のセリフだとか、みんなで、そうだそうだってかを合わせるシーンとかが、楽しくなってだんだんだんだん盛り上がってくるんです。くるくる回りのシーンで、最初はみんな何していいか分からなくて、自由に体を動かすってことがない刑務所ですから、自由に動けないんです。それがだんだんだんだん動けるようになって、みんなで手つないでとかいろいろ楽しくなっちゃって。もう、ワッハッハッハって大声で笑って、そしたら隣の教室から、うるさいって苦情が来たというくらい楽しい教室になりました。そこに刑務官の先生が巡回してきて、見てびっくりなさって。何しろそこに集まっているのは札付きの悪ったちゃんたちですから、みんなとうまくやっていけない。え？先生、こんなに上手にお芝居してどうなってるんですかと。このｆたち、いったい、先生、何時間このお芝居を練習なさったんですかと聞かれました　今日だけですけど、みたいな、ちょっと鼻高い感じですけど、ここで、何で彼らが工場とかで力を発揮できなくて、何でうちの教室では１時間半でこんなにうまくなっちゃうのか、みんなと協調性ができちゃうのか、ここに大きなポイントがあります。

それは、第一にまず教官が、授業が始まる前に、なぜこの授業をするのかの意味を話してくださいます。意味、意義を知らされずに何かをやらされることくらいしんどいことはありません。なぜ、これをすると何のいいことがあるのか。これは君たちが社会に帰ったときにスムーズにコミュニケーションができて、困ったときに、助けてって言える、嫌なことは嫌ですとちゃんと断れる、そして幸せになるためのそういう練習をするための教室なんだよ。だから君たちに点は付けません。よくできたとか、できなかったとかいうことは一切ないから安心してくださいっていうふうに教官がおっしゃってくれます。常にマイナスの評価にさらされた彼らは、評価されることが大嫌いなんです。私も通知表とか死ぬほど嫌いな子どもだったんですが。ともかく、これで仮釈放が早くなったり遅くなったりすることはありませんから安心してくださいねって言うんです。私たち、教官側も最初に申し合わせをします。まず否定しない。何があっても絶対に否定しない。じゃあ今日はウォーミングアップで１人１つ何か自分の好きなもの何でもいいよ、食べ物でもいいし、スポーツでもいいし、歌でもいいし、何か好きなものを挙げてもらいましょう。「は

い，僕の好きなものは覚醒剤です…。うわあ、何て言ったらいいんだろう，慌てます。そしたら、教官、さすがです。「そうか，覚醒剤好きなのか。自分の好きなものを素直に言えるっていいことだね。」っておっしゃってくださいました。そしたら彼は、実はって話し始めました、自分から。「僕はとてもつらいことがあって、もう何にも感じられなくなった。嬉しいも楽しいも何にも心が動かなくなったことがありました。とてもつらかったです。まるで自分の手足がバラバラになってしまったみたいに思いました。その時に友達がこれやったら元気になるよって覚醒剤をくれました。やってみたらすごい何か生き生きした気持ちになって、自分がひとまとまりになったような気持ちになりました。それで覚醒剤が手放せなくなりました。でも続けているうちに、またバラバラになってしまいました。できればやめたい，やめたいと思っているんです。」というふうに告白してくれました。やはり否定しなかったことが、彼の次の自分からの言葉を引っ張り出してくれたんです。よく芸能人なんかも、申し訳ありませんでした、もう絶対にやりませんってみんなの前で土下座したり謝ったりしますね。そういう言葉を人々も望みますね。でもそれって，『ダメ。ゼッタイ』っていうあのフレーズは、実は本当はすごく厳しいことだそうです。むしろやばい。『人間やめますか？覚醒剤やめますか？』これもやばい。1回手出しちゃいました、そしたら『人間やめますか？』って言われちゃうわけですよ。お前，もう人間じゃないよね。そしたら考える気持ちになれます？俺はもう人間じゃねえよとかって思っちゃうじゃないですか。そうじゃない、人間だもん、スリップするよ、間違いもあるよ，またやっちゃうよ、やりたくなくてもやっちゃうんだよって。でも、やっちゃったよ、また一から出直そうよ、今日からまた1日、2日、3日って積み重ねていこうよって、そういうことが大事なんです。だからそんなことを宣言させない。もう絶対にやめますとかそういうことを宣言させちゃいけない。そういうときも人間あるよ、でもそれでも頑張っていこう，味方だよ、君がどうなっても私は味方だよって，そういうことを伝えていくことがむしろその子の力になるんです。ダルクというグループがあります。自助会です。そのグループの方針はそういうことです。スリップした仲間を見下さない，それも仲間としてウェルカムでちゃんと迎えてあげる。今日からまた一緒にやろうねって迎えてあげられる、そういう仲間が一番力になるそうです。そういうふうにして，否定しないということを私たちの第一にしました。そして教誨師の皆さんを前に、こういう話をするのはなんですが、説教をしない、人生訓を垂れない、特に指導をしない。傾聴という言葉に象徴されますが、とにかく受け止める、そうかそうかと聞いてあげるということを大事にしましょう，そして褒めすぎない。あんまり褒めると褒められたような自分を装う。いい子な振りをしようとしちゃうのね。つまりここの教室は、嫌の自分、あからさまな自分，駄目な自分、情けない自分，泣き虫な自分、そんな自分でも許してもらえるんだ，ばかにされないんだ，見放されないんだ，仲間だと思ってもらえるんだ，励ましてもらえるんだ，一緒にやろうねって

言ってもらえるんだということを彼らに実感してもらう，これが私たちの仕事です。私たちはだから，何かしようとしない。ともかく彼らがここでなら，覚醒剤が好きですってそういうことを言っても叱られない。むしろ，うーん，好きなことを素直に言えるのはいいねって言ってもらえると，褒められたわけじゃないけども，否定されない，そういう安心感を与える。安心な土俵を作ってあげることが私たちの仕事です，というふうに教官に言われました。結構難しいです。何か良いことを言うとつい褒めたくなっちゃいます。それを，褒めるんではなくて共感しようって。何かこういうことができました，これ頑張りましたというときに「偉かったね。」じゃない。それは上からの褒め言葉です。そうかあって何かができて喜んでる，君が喜んでる，そのことが私も嬉しいと，そういう形での共感。共感の形で彼らに寄り添う。褒めて，使い。じゃあ，そういうあなたになりなさい。頑張れ頑張れというのは，今のお前は駄目だよと言ってることにも等しい。そうじゃないんだと。今のあなたでOK，だけど何か一緒に前向こうねみたいな。ここまでおいでじゃなくて，一緒に前向いて歩いていこうねって，そういう気持ちを大切にしてくださいというふうに教官に言われました。共感は素晴らしいと思います。この教室のときに，どうしてもみんなの前で話せない，絵本の朗読とか勘弁してくださいっていう子が，最初の「おおかみのこがはしってきて」の絵本の時にいたんです。その子が，「先生，無理です。」って言ったら，先生は肯定しないです，「いいよ，分かったよ，しなくていいよ。でもやりたくなったらいつでも言ってね。」というふうにちゃんと余地を残しました。そしたらその子があとになって，先生にこう言ったそうです。「先生，僕，生まれて初めて信用ができる人に会いました。今まで無理ですって言っても，何バカなこと言ってるんだ，みんなやってるんだから自分もやらなきゃ駄目じゃないかって怒られる。大丈夫，君ならできる，頑張ってごりんと励まされたりしてつらかったんです。」，ときに励ましはつらくなります。特にうつ病系の人は励ましちゃいけないといいます。ケースバイケースだと思いますけれども。うちのクラスでも，やりたいな，でも恥ずかしいな，やりたいな，でも恥ずかしいなって思ってる子に，「○○君，やってくれない？」って言うと，「まあ，先生にそこまで頼まれたからやりますかね。」とか言って何だか嬉しそうに前に行ったりする子もいるんです。でも，本当に無理，もう使い物にならないっていう子もいるから，よく見てれば分かる。その子が今どういう状況か見てれば分かるから，背中を押すときは押す。そのままでいいよっていうときは，いいよって言ってあげる。そういう臨機応変に対応するんですけれども。そして，この教官はあるときある生徒にこう言われたそうです。「僕が深い穴の底に落ちていたときに，ある先生は，おーい，大丈夫か？と声を掛けてくれました。ある先生は穴の上まで来て手を差し伸べてくれました。ある先生は穴の下まで降りてきて，僕のお尻を押し上げてくれました。でも先生は違いました。穴の底に降りてきて，黙って僕の隣に座ってくれました。そしたら僕，いろんなことをお話しすることができました。

話してるうちに何だかだんだん元気になって、1人で穴を掘れそうな気がしました。試してみたら外に掘られました。僕、もう犯罪をしなくていい気がします！と。寄り添うってそういうことなんだと。それを教室でもなるべく実践したいなというふうにしました。それで非常にうまくいったんです。そのようにして、みんなが心を開きかけてくれる、みんなが仲よくなった時点で、じゃあ詩を書いてきてくださいとお願いします。でも難しいですね。教諭の先生方も、もし詩を書いてきて来週みんなの前で朗読して発表してください、みんなの感想を聞きましょうと言ったときに、嬉しい人、手を挙げてください。ちょっと躊躇してほしいって人は手を挙げてください。数人ですね。やっぱりちょっと勘弁、が多いですよね、圧倒的に。学校の先生でも当然、ちょっと勘弁組がほとんどです。だからそれは彼らにしたら、ますます勘弁してくれ状態です。それをどうやってハードル下げるか。難しいこと書かなくていいんだよと。これは、『おおかみのこがはしってきて』もそうですけれども、からがなだけで書いた優しいお話、こういう感じでいいんだと。まど・みちおさんの

「そうさん　そうさん
おはなが　ながいのね
そうま
かあさんも
ながいのよ」

あれも詩なんです。そういうふうに話をして。金子みすゞさんの「みんならがって　みんないい」とかそういうのを読んだりして、最初に。こんな優しい言葉でも詩になるんだからねって言って授業をしたんですけども。そのあとに彼ら自身に書いてもらった詩を題材にしたところ、どんな詩でも、彼らの作品を題材にしたほうが圧倒的に効果が上がるということが分かりました。それで金子みすゞ先生とまど・みちお先生にお引き取りいただき、いきなり3回目から彼らに書いてもらう。立派なこととか、すてきなこととか、褒められるようなこととか、美しいとかあえなくていいからって。刑務所に文句があるんだったら、文句たらたら書いても構いません、怒りませんから。楽しかったこと、苦しかったこと、何でもいいです。夢でもいいし、本音でもいいし、今朝気持ちよかったな、でも帰れないし、ともかく本当に嘘しくないからって言って、ハードルを下げます。そして、もしどうしてもどうこうても書くことが見つからなかったら、何か好きな食、自分の好きな色について書いてくださいって言いました。そしたら、そのときに教官が、こう言ったんです。「書くことがなかったら『書くことがない』って書いてきてもいいんだぞ。」って。教官、余計なことすうなと内心思いました。そしたら、次の時間並んだら全員ですよ。

書くことがない、書くことが見つからない、書くことが分からない、全部それ。話にならない、どうするのって、で、その日は雑談。雑談で終わっちゃったら、次の授業、さすがにちょっと寂先生、気の毒かなって思ってくれたんですね。それで、みんな何がしか書いてきてくれたんです。ああ、優しいなと思ったんですけども。そしたら1人だけ、「詩が思いつかない　まさかのパート2」って書いてきた子がいたんです、何だ、こいつはと内心思いました。はかにしてるのか、ふちょくってんのかとか思ったんですけど、腹で出さないように苦労をしました。その回は自分が虐待された話とかいろんな詩を書いてくれた子がいて、みんながそれに対して感想を述べてくれたんです。そうしたら3回目の授業のとき、彼は突然詩を書いてきたんです。その詩が素晴らしかった。この2冊目の『名前で呼ばれたこともなかったから』という詩集に入っていますけれども。読みます。『涙』これは警察に捕まったときの話です。

「　仕事一本
　頑固な父
　名前で呼ばれたことも
　なかったから
　必要以上
　会話もらない
　そんな関係である
　ある警察官は
　僕の父に質問をしました
　子どもを
　漢字一文字でたとえると
　なんですか？
　まっ白な紙に
　大きく
　大きく
　書かれた文字は
　「宝」でした
　そのとき　ぼくは
　おさえられない
　なにかを感じました
　数秒後には
　キレイな

涙が流れていました」

もう泣いちゃいました。私はこれを聞いて。私は、彼は本当に心の扉を閉じていたんだと思います。でも2時間目の授業のときに、ちょっと心の、こんなつらい目にあったとかいろいろ書いた子がいて、みんなが、そうだよ。そうだよ、僕もね、兄ちゃんにこんなにいじめられたんだとかいろいろ話をしたのを見て、それで、このメンバーになら、この教室でならホを明かしてもいいかもしれないと思って、サラッて心の扉を開けてみたら、ぽろりってダイヤモンドのような思い出がこぼれたということなんじゃないかなというふうに感じました。大変な目に遭った人の話を聞くと、その前後の記憶がありません。思い出せないんです。つらいことをないことにしようとすると、一緒くたに全部忘れちゃうことになるんです。記憶が出てこないんです。その記憶を、それがトラウマっていって、そのトラウマがすっごい悪さをしてうつ病になったりとかいろいろ、人生に困難を巻き起こすわけですけど、やっぱりトラウマをもう一度見つめていってべんがらの取り出して、それは今の自分じゃない、過去のことだってちゃんと認識して、対象化できることによって、トラウマがよくなるっていいますけれども、ともかく彼はそのようにして心の扉を開いて、自分の思い出つらいことばっかりじゃなくて、こんなこともあったんだなって思い出したんだと思います。教室ではこの時、実はお母さんがいました、その時って言うんです、彼が。お母さんが書きました、文字をって。何て書いたんですかって聞いたら、子どもの「子」の文字1つでした。え？って思いました。あなたの子を漢字一文字でたとえると？って、「やった、優しいとかそういう字じゃなくて、愛とかいう字でもなくて、子どもの「子」しか書けないお母さんって、恐らく何がしかの問題を抱えていたお母さんなんだろうなと思います。コミュニケーションに関する困難を抱えていたかもしれません。だからお父さんが、太郎ちゃんってお子さんを見ても名前さえ呼んでくれない、そういう関係。でも真面目で職人で一生懸命働いて、お金はおうちに入れてくれる。でも家の中で一切会話がない。会話がないけどお母さんはそれを補完するようなことはできない。そういう中で育って、寂しくて、寂しくて、寂しくて、犯罪というところに行っちゃったのかもしれないな、というふうに思いました。

また、こういう詩を書いてきてくれた子がいます、「くも」という詩でした。それはたった1行だけ。タイトルにさせてもらいましたが、これと行になってますけど1行です。『空が青いから白をえらんだのです』。これ、この詩を書いた子は、頭に大きな傷がありました。刑務所は丸刈りなので、傷が丸見えです。自分から話してくれましたけれども、お父さんに金属バットで頭殴られて割れた時に縫った傷だって言うんです。そういう環境で育った子です。覚醒剤で入ってきました。覚醒剤の後遺症も当時まだ少しあって、ろれつがうまく回りません。そしてよったく自分に自信がなく、いつも下を向いて早

はでしゃべる子でした。はい、A君、詩を読んでくださいとお願いしました。そしたら、「○○、○○!。ちょっとよく聞こえなかったな、もういっぺん読んでくれる?それでもダメ。ごめん、向かいのお友達に聞こえるように顔を上げて、大きな声でゆっくり読んであげてくれませんかとお願いしました。そしたら彼は緊張って、一生懸命顔を上げて『くも』『空が青いから白をえらんだのです』。みんなが、よかったよって大拍手をしました。そしたら、「先生、話したいことがあるんですけど、いいですか。」って。自分から話したいなんてはうなんて、どうぞ、どうぞ話してくださいと言いました。最初の一言は忘れられません。「僕のお母さんは今年で7回忌です。お母さんは体が弱かった。けれどもお父さんはいつもお母さんを殴っていました。その頃僕はまだ小さかったので、お母さんを守ってあげることができませんでした。お母さんは亡くなる前に病室で僕にこう言ってくれました。つらくなったら空を見てね。私はきっとそこにいるから。僕はお母さんのことを思ってこの詩を書きました。」って言うんでびっくりして。空が青いから、私はあなたによく見えるように真っ白な雲になって浮かんでいますよ、いつもあなたを見てますからね、そういうお母さんの気持ちをこんな短い一行に。『空が青いから白をえらんだのです』こんな一言にまとめた、何て、何て深い詩だろうと思いました。これ1行読んだだけじゃ分からないけど、その背景が。そしたらみんなが、はい、はい、はいって自分から手を挙げるんです。はいって言って、僕は、A君はこの詩を書いただけで親孝行できたと思いますって言ってくれるのね。お母さん抱けられなかった、ごめんなさいと思って、大丈夫、大丈夫、きっと天国のお母さんに通じてるよっていう気持ちですね。もう1人の子がいました。僕はA君のお母さんはきっと雲みたいに真っ白で清らかな感じの人だったんじゃないかなと思います。驚きました。白という色と清らかという抽象的な概念を結びつけて、語れることができる想像力、イマジネーションがあるんです。だったら犯罪したらどうなるかぐらいちょっと考えたはよかったのにと、もう言いたくなる気持ちをこうやって抑えつけてですね。そしたらまた1人手を挙げて、どうぞって言ったら、はい、僕はA君のお母さんは雲みたいにふわっふわで柔らかくて優しい感じの人だったんじゃないかなと思いますって言うんです。うわあ、なんていい子たちだろう。そしたら1人真っ暗な顔して下向いて何にも声の出なかった子が、はいって挙げて、どうぞって指したら声出ないですね、声出ない。すごい苦しんだあげくに絞り出すように言いました。「僕はお母さんを知りません。でも僕もこの詩を読んで、空を見上げたらお母さんに会えるような気がしてきました。」って。

『　ぼくのすきな色は
　青色です
　つぎにすきな色は

赤色です　」

それしか書いてこなかった子に、「僕はA君の好きな色を1つだけにやなくて、2つ聞けてよかったです。」と言ってくれるんです。作者はあの土の塊くんです。「青と赤が好きな子になんだなって思いました。」と優しくいってくれる子もいました。そしたら、その土の塊くん、全く表情がなかった子が笑ったんです。笑って話せるようになったんです。みんなとその日から会話ができるようになった。まるで悪い魔法が解けて、人間の男の子に戻ったみたいな感じでした。さっきの俺様の子も、やっぱり詩を書いて、この子も声が出なかったんだけど、みんなに受け止めてもらったら、ちゃんとこうきちんと座れるようになりました。受け止めのできてない態度の悪いやつがいたときに、問題がこちらにあるんだ、受け止めきれていない、あんたは僕を受け止めてくれてないだろうという意思表示が悪い態度なんです。この人は受け止めてくれる人だ、分かってくれる人だと思ったらよくなります、かわいくなります。いい子になります。そういう感じでうちの子たちは、みんないい子になってきました。あるとても有名な教師塾から、「岸さんの教室ではみんなよくなっちゃうってきうんですけど、どうしてですか。私は3年間にわたり2週間に1度面接を続けてきた対象者がいるんですが、一向に変化がみられません。いったい何をしているんですか。」と聞かれました。そのときにようやく気が付きました。これは私たちの力ではない、うちのクラスメイトの力だ。表現をするということ、みんなの前で声に出して自分の詩を読むということ、それを受け止めてくれる同じ仲間がいるということ、この仲間に受け止められたという実感が彼らを癒し、彼らを変えて、そして私たちが、こっちのほうに向きなさいという必要なく、いったん芽を出した苗木の芽は、ちゃんと自分たちで明るいほうへ明るいほうへ、太陽のほうへ太陽のほうへと、自分たちで勝手に育っていきます。私たちが指導をする、こっちを向きなさいという必要はありませんでした。本当にみるみる伸びていきます。そして幼稚だった彼らが、みるみる実年齢に近づいていきます。教室内にあったかいものが流れて、みんなが信頼して、この仲間に刑務所に入る前に会いたかった、そうしたら僕はここに来なくて済んだだろうというふうに言われました。教誨師の先生方、本当にうちの教誨師の先生も腰の低い、受刑者の目線に合わせてくれてお話してくださる先生方でしたが、そして私なんかもそうですが、どうしても彼らから見たら立派な人です。罪を犯してない人です。そういう人たち、そういう人たちとやっぱりこう格差があるわけです。だから難しいんです、私が何か彼らに言っても、「先生、仕事だからそう言ってんでしょう。」と言われることがありますから、本心で言ってるって思ってもらえなかったりすることもあるんだけど、同じ仲間が言ってくれたら信じられるんですよね。本当にみんながよくなっていく。それは詩の言葉。詩の言葉っていうのが、神聖な言葉でそれを受け止めてくれたっていうのもあるけども、場の力、味の力、それを

受け止めてくれる仲間がいるということが何よりも大切だなと思いました。

刑務所の高い壁は、彼らを閉じ込めておくための壁だと最初思っていましたが、彼らを守るための思い差別に満ちた、偏見に満ちた世界から守って心を育てていこうねって、そのための新潟県だと思えるようになりました。そして、受刑者は外に出たら、みんな集まっちゃいけないよっていう今の制度ですけれども、できればお互いまた会って励まし合う同窓会が開けるようなそういうシステムになっていったらいいなと。そしておそとか教会とかそういう場所、そういう子たちが集って、そして語り合える。我、失敗しちゃった。スリップしちゃったということを告白しても怒られない。また一緒に頑張ろうねって言えるような場であってくれたらどんなにか嬉しいだろうと思います。よろしくお願いします。

どうもありがとうございました。

研究発表

「刑務所内における葬儀式の意義と課題～人と生まれて～」



札幌刑務所教誨師会　須磨興人

札幌刑務所の教誨師を担当しております、須磨興人でございます。どうぞよろしくお願いします。

今、座長の方より課題として紹介していただきました、「刑務所内における葬儀式の意義と課題～人と生まれて～」ということを少々お話しさせていただければと思うところであります。

今回の教誨師研修大会のサブテーマが、「いのちの尊さに目覚める教誨」という内容をお聞かせいただきながら、私自身が、果たして命の尊さというものをどういただいてきたのだろうかということを考えさせていただいております。人は生まれながらにして、当然絶対の平等であります。しかし、現実的にそれがどうかと考えますと、昨日の記念講演において、瀬先生からの問い掛け、「加害者になる前に被害者であった。」つまり、無意識に実は色分けを自分自身の中でしている、その存在を感じずにおれない。良いとか悪いとかではなく、私の中で、無意識のうちに相手を色分けしている。そういう事例が、昨日の講演を通しながら感じさせていただいているところであります。その人の一生というものを、当たり前の話なのですが、一方向でしか私は見ることができないということにもかかわらず、その人を知ったと思い込んでいる。全体が見えていないにもかかわらず、全体を知っているような錯覚に陥っているんじゃないか、その事柄を通しながら、教誨においての葬儀式について、お話をさせていただければと思います。

人は縁をいただいて生まれ、育ち、そして死を迎えます。これは有史以来、平等であり、変わらない事実であります。どのような人であっても、この流れには逆らえない。時として、その事柄が不安や悩みとなり、そのことを考える節目があるわけであります。仏教では釈尊が、「四門出遊」（老病死を見て世の無情を悟る）。これは私どもが主たる経典としている「仏説無量寿経」の中で、釈尊はそのようにお説きになられているわけです。私の一生も、この世にあるすべての事柄も、諸行無常であり、過去が今の自分を見出し、今の自分が未来に向かって歩む中において、必ず変わっていくという事実を生きている私が、人として生まれてきた姿なのではないかということを思うわけであります。

人として生まれてきたことが一体どういうことなのかということを考えたときに、これは皆さま方も、私も、生まれてきたという意識は当然ないわけであります。そのような中で、自分自身が生まれてきたということを問題にするということは、どこであるのか。実は、生きる過程において、「私は何でここに生まれているんだろうか。」「私はどうして生まれてきたんだろうか。」「私が生まれてきた意味というのは何だろうか。」という問いが起こったとき、自分の誕生というものが初めて課題となる。

教法というのは、この一点なのではないかということをこのごろ感じるのです。私たち自身が生まれてきた意義というものを、私たち自身が絶対にそのことを感じずにおられないときが来る。そのとき、私たちが改めて自分自身の歩みと、他と共に確認していくという場が、教法という場なのではないでしょうか。その事柄を通して、自分の思いを超えて、どのような縁かは分からないけれども、課題化することができない、そして、気付かされている出会いを通して、教法が、行う側も受ける側も、枠を越えて、気が付かせていただく。そして、その事柄が、忘れても逃っても返っていける、「問い」帰ってゆけるところこそが、教法がもつ大事な一点ではないのでしょうか。答えを与えるのではなくて、私たち自身が共に問われていることを聞いていく。そこにあるのではないかと思うわけであります。何故、私が生まれてきたのか。その答えを、自分自身の生まれたという事実の中に問われることによって、限りある人生、つまり老病死の課題を通して、人の死に接する意義と課題を考えていきたいと思います。

刑務所内の高齢化ということで、高齢化社会になり、現在、総人口１１億２，４８３万人に対して、６５歳以上の人口が３，６２３万人となり、総人口の占める割合、高齢化率は、今の現時点で２９．１％という状態であります。この割合は、年々上昇することが見込まれております。北海道新聞の記事でお読みになられた方もいらっしゃるかもしれませんが、北海道における両親とお子さんが暮らされている家、そして、その両親のうちどちらかが亡くなられて、親とお子さん一人が暮らされているパーセンテージが１６％をいずれ超えるであろうというデータが出ております。

ますますお一人での生活が増加していく現代社会の現状であります。私が札幌刑務所の

教誨師をお受けした時のことではあります。刑務官の方々とお話ししていると、受刑者の方々の高齢化が指摘されており、医療機関の受診を受けられている方が増加しているということを、２０年くらい前から私は聞かせていただいております。当然、若少々定でありますから、葬儀の増加が高齢化の問題であるということが結論付けられるとは思いません。ただ私が刑務所の御仮釈を受けて葬儀に立たせていただく縁が多くなることを通して、一人の命が終えられる場から、何に触れ、感に伝えなければならないのか。葬儀を通して、人と生まれた意義を吟味していく、そういう必要性を感じております。

刑務所内での葬儀に当たり、刑務官の皆さまの御尽力により、亡くなられた方の周縁の方々への御連絡が行われております。さまざまな境遇の中で参列されるかどうか台かは、権利としてこれに認められています。以前担当されていた刑務官の方との会話の中に、私が生前様々な事柄の結果を生み、思う心は決して穏やかなものではない。これは御遺族のお気持もでありましょう。しかし、僧侶としてやはり、亡くなられたならば私たち自身の中で、果たしてそういう思いを超えたものがあるのではないかということを伺ったときに、「先生の申すことは重々分かるけれども、ただ、亡くなられた方の家族としては、これだけ悩まれ苦しまれていたか、その責任はあるのではないか。」と、罪に対しての責任が、そこで問われております。身近な家族がおよぼす苦しみ、そして悩み、悲しみ、裏切られていく心情。亡くなられても、なお残る思いが、残念ながら参列の方々が少ないという現状であり、御遺骨をお預かりされる方々が少なくなっていることは確かであります。

つい十年以降、ますます拍車をかけているような感じがします。では、関わりとはいったい何か。家社である親鸞が、「おんごろ」という言葉をお手紙で用いております。「おんごろ」とは、仮っこがそれぞれが絡み合いながら支え合っている姿であるとイメージしていただくと分かりやすいと思います。私たちにとって関係あるなしに、全ての方々と実はつながりがあり、そしてその人が立っているという事実であります。そういう関係性を考えさせていただくと、何も肉親だけが遺族ではないのではと思います。私が関わらせていただいて以来ずっと、これは戸面聞いていたことではありますが、札幌刑務所の所長様をはじめ、多くの刑務官の方々が一緒に参列してお参りをするという事柄。非常に大切なことなのではないかと私自身は思います。私一人がお参りしているのではないかと勝手な思い込みがあったのですが、そのようなことが未だ微て一度たりともないという事柄が、「おんごろ」という意味をそれと同時に御家族の方々との思いというものも、私たちは考えていかねばならないのでしょう。

最後になりますが、刑務所内における葬儀式の課題についてであります。「葬儀式」と「教誨」というのが一体どういうことなのか。「名告り」を御縁と考えさせていただいております。現在、葬儀式を務めさせていただいている中で、亡くなられた方のお名前（俗

名」で執行させていただいている現状であります。亡くなられた方々の宗旨は当然さまざまであり、御遺志を尊重するべきであることを前提にお話をさせていただきます。改めて、私たちが葬儀を執行するということが一体どういうことなのか。さまざまな宗旨の先生方が葬儀の執行にお越しに来られている。それぞれの宗旨のもとで葬儀式が執行される中において、亡き人の「名告り」が実は聞かれているのではないかと思うのです。

これはそうしなさいという話ではありません。しかし、大阪での教誨活動をお聞きさせていただくと、宗旨に合わせて亡き人に対しての「名告り」をいただいている事例があるわけであります。大変デリケートな話かもしれません。しかし、教誨師が葬儀式を執行するということはいったいどういうことなのか。教誨師全体が課題として、これは当然、法に基づきながら葬儀式を執行することを踏まえた上で、私たち教誨師自身がどのように受け止めているのかという大きな課題が底にはあるのではないかと思うのです。

決して「名告り」というのは葬儀のためだけに付けられているものではない。たとえどのような縁があろうとも、私自身が私を見捨てたとしても、貴方と共に生きたいという願いがかけられていること、その言葉から出会ってほしい。その「はたらき」を気付かせていただくことが、私たちにとっての「名告り」ではないでしょうか。そのことはたとえ忘れても忘れても続いていける、そのように生きたいというその「名告り」が各のはたらきであり、そして力となっていくのではないでしょうか。教誨の意義であって、葬儀式を大切にする重要な場として、私たち自身が人と生まれてという事実を通しながら、共に考えさせていただく場の中に日々の教誨と、そして、その方が最後を迎えたときの儀式としての葬儀というものがあるのではないかということを考えさせていただいていることであります。

大変長くなりましたけれども、私自身の試題として、「名告り」について、教誨師の皆様方と考えさせていただければということを提案させていただきまして、私の問題提起に代えさせていただきます。長時間にわたり大変ありがとうございました。

研究発表「私の教誨」



函館少年刑務所教誨師会　内　田　誠　司

自分の教誨が果たしてそれでいいのだろうか、といつも思っていながら、特に今回はアップデートという上梓がありますので、私自分もアップデートさせていただきたいなと思っているところでございます。

私は、平成２４年６月から、ふた月に一度の割合で天理教の集合教誨を務めさせていただいております。天理教の教誨師は私を含め２人ですので、１か月おきに務めております。函館少年刑務所教誨師会には４つの宗派があります。各宗派毎月１回の集合教誨が組み込まれており、その他に、受刑者の希望によって個人の教誨をさせていただいております。また施設の定員は、９４８人で、現在受刑者の数は約５６０人程度、集合教誨を実施している受刑者は１０５人程度でございます。受刑者の５人に１人の方が宗教の教誨を受けているということになります。昨年、天理教では１２回、毎月１回ずつですから、１２回の集合教誨を実施させていただいて、延べ６名の受刑者が参加しました。

函館少年刑務所は、「少年」という名称がつきますが、私は少年の方を見たことがなくて、成人年齢よりも上の年齢の方をよく見かけます。御存知のように、船舶機員科訓練などの集合型の職業訓練の実施施設を持っておりますので、専門職種の技術も学べるという刑務所でございます。ですから、高齢の方でも初犯であったり、比較的刑期の短い方がおられるのかなという感じがしています。本日は、私が集合教誨に臨む際にこのようなことしています、ということを述べさせていただいて、務めに代えさせていただきたいと思います。

集合教誨に行かせていただくと、まず最初に、天理教の神様、親神様（おやがみさま）、そして教祖（おやさま）、相当様（みたまさま）を参拝させていただきます。教誨に参加

されている皆さんには、座ったまま神様のほうに向かって参拝していただきます。そしていつも話の始めに、この親神様、おやさま、祖霊様の説明を簡単にさせていただきます。親神様はこの人間世界を創造された神様であって、私たちの親のような存在だという由来から親神様と申しますよとお伝えします。そして、正式名称天理王命と申しまして、人間世界を創造された目的があるのですよとお話します。人間が「陽気ぐらし」をするのを見て、神様と共に楽しみたい、互いに助け合いの世界なんだ、ありがたい、結構だなと喜び味わう毎日、これが「陽気ぐらし」なんですよということをお話しています。この教えを私たちに教えてくださった方、これをおやさまと言うんだよとお伝えしています。おやさまは、天理教の教祖のことで、親しみを込めて「おやさま」と言うのですが、立教は１８３８年、天保９年の１０月２６日、中山みきという方が４１歳のときに、この中山みき様の体のなかに親神様が入り込まれて、「我は元の神、実の神である。この屋敷に因縁あり、この度世界一列を助けるために天下った。みきを神の社にもらい受けたい。」と親神様のほうから宣言をされて、そして中山みき様が教祖、おやさまになられたんですよとお話しています。

では、おやさまは、何を私たちに教えてくださったのかというと、人間を創造されたのは誰なのか。親神天理王命様ですよ。人間は何を目的に生きているのか。人間は「陽気ぐらし」をするのを神様が共に楽しみたいと思われているのだから、人間の生きる目的は陽気ぐらしなんです。じゃあその「陽気ぐらし」っていうのはどのようなものなのかということをこの教祖、おやさま、中山みき様は５０年という長きにわたって私たちに教えてくださったんですよということを話します。

私たちの体は自分の体だと思っていますが少し違っていて、自分の体だと思っているけれど、実は神様から「陽気ぐらし」の世界になるようにお借りしていて、では、なぜ自由に使えるのか。それは、私たちの体は、神様からの借り物だけれど、心の持ち方、心の使い方だけは、一人一人自由だからなのですよ、とお伝えしています。その心の使い方が、知らず知らずの内に、「自分さえ良ければ」とか、「まず自分から」というように自己中心的になってしまうから、今の世の中が「陽気ぐらし」の世界になっていない。もしかしたら、受刑者の皆さんも、そういう我が身、我が心を自由勝手に使ってしまったからここにいるということになっているのかな、とお話させていただきます。いつの間にかこの自分中心の心使いになってしまう。でもこの世の中は、願いどおりの世の中にはなくて、心の使い方どおりの世の中なんだってことを伝えさせてもらうのです。その心の使い方によって、その先の人生や運命が変わってくるのだということを力を込めて伝えさせていただいております。その「陽気ぐらし」に向いていない心の使い方、親神様からメッセージとして、「うならば天理教では病気のことを身上といい、色んな人間関係のもつれを事情と言いますけど、そうやって色んな形で親神様は見せてくれている。そこが感じられるか感じられないかっていうところから、心の向きを変えることが大事なのだとお話させてもら

ています。

皆さん方に必ずと言っていいほど、皆さん方にとっての幸せとはなんだろうねと尋ねさせていただきます。天理教の教祖参加人数はそんなに多くありませんので、集合教祖といえども多くても7～8名くらいですから、一人一人聞くことができます。幸せってどう思う？と尋ねますと、「願い通りになることかな、とか、美味しいものを食べられるっていうのが幸せだと思います。」とか、少し御年配の方は「家族と仲良く暮らすのが幸せだと思います。」とか、それぞれ答えてくださいます。数年前までは、あまり発言してくれる方が多くなかったのですが、今ははとんど全員が前向きに発言してくれるようになってきたと思っております。私が感じるところによると、やはり、ちょうど良いときにちょうど良いような状況になってくる。これが一番、私、幸せなんじゃないかなと思うのですとお話をします。なぜかというと、願い通りの世の中じゃなくて心の使い方通りの世の中になってくる。いくら願っても心の使い方が自分中心になってしまったら、神様は、絶対そのように与えてくださいませんから、人間、毎日生きていくなかで、ちょうど良いときにちょうど良いような状況になってくる、お与えいただくってことが私は幸せなんじゃないかと思うのです。それをお話すると、なるほどなっていう感じの頷きしてくれます。

もう一つ、私たちに大事なこと、良い出会いがあるということが大事なのではないかなとお話します。人と人との出会い、この出会いというのもやはり、心の持ち方とか使い方によって、その出会う相手との出会うタイミングだとか、色んな状況によって変わってきますが、私はこの出会いというのも大事なことなのだろうなと思うのです。やはり少しでも、神様に喜んでいただけるような心の使い方をしていったら、人との出会いもよくなってくるのではないかなと思うのです。その出会いによって、出会う相手によってその先の人生も変わってくるという方がたくさんおられます。では、どのようなことをしたら、このちょうど良いときにちょうど良いようにお与えいただけたり、また、出会いが良くなったりするのかということをお話しするのですが、その一つとして、皆さんここで、自由なことはできないかもしれないけれど、何気ないことでも喜べること、また神様に受付取ってもらえることはたくさんあると思いますとお伝えします。

例えば、ここでは当たり前かもしれないけれど、トイレでスリッパを揃えて脱ぐとか、お風呂に入るときはありがとうございますと心のなかで唱えるなど、そのようなちょっとしたことの連続というのが大切なんじゃないかなと、こういうことがあればあるほど私は、神様が喜んでくださるなと思いますよ、とお話します。また、もし可能なら、神様ありがとうございますという思いをいつもいつも思って何かをする、それが天理教では「ひのきしん」って言うのですよとお伝えしています。「ひのきしん」というのは、よく天理教ではひらがなで表現しますが、これは日々の行為、日々、神様ありがとうございますと思いが「ひのきしん」ですから、スリッパを揃えるのも「ひのきしん」、相手に頭を合わせたときにニコッとするのも「ひのきしん」、何でもこうやって神様ありがとうございますと

思うことが「ひのきしん」なんだよ、これを継続することで、大きく変わってくるんじゃないかなと話させていただきます。

ほかの先生もおっしゃっていたように、この施設から出てからが重要で、そのためには、この施設にいる間に少しでも準備や練習をさせていただく。また施設内で準備や練習を繰り返すことによって施設から出てからの生活のなかでこれが必ず活きてきますよ、とお伝えします。継続することで、ちょうど良いときにちょうど良いことになったり、出会いが良くなったりということにつながってきて、皆さん方がそれこそアップデートしていきますし、私自身も皆さんに話させていただくたびに、皆さん方の心に伝わるような話をさせていただくような機会があって本当にありがとう、といつもそういうふうにして終わっています。

受刑者の方が毎日を感謝して生活できるような教誨をこれからも続けていきたいと思っています。函館少年刑務所教誨師会では、年に一度の「総会」や「臨時総会」があります。それぞれの総会の後には、他の教誨師さんとお食事をしながら情報交換をする機会がありますが、その機会が私にとって、とても有意義な勉強の場になっております。というのも、他の宗派の方々、信仰されている方々のお話を聞かせてもらったり、また、どういう教誨をされているかについては、情報が少ないです。そこで私は、祖芝居やっていますよとか、本を読んでいますよ、ＤＶＤを観ていますよということを教えていただいたり、それを参考に私も教誨で活用させていただいたりということもあります。是非、そのような取組はこれからも続けていけたら良いなと思っています。函館少年刑務所の教誨師として１３年継続させていただいておりますが、まだまだこれから自分自身も成長していかなければならないと思っている昨今でございます。ありがとうございました。

研究発表「心満たしめる教誨を」



千歳教誨師会　木　村　恵　一

北海少年院、そして札幌女子学院の教誨師を担わせていただいております木村と申します。私は釧路の山形浩之先生の御紹介で、この道に導かれ、そして6年前にこの教誨師としての任命をいただきました。未だ教誨をなすということに関しては手探りの状況でありますが、けれども講話を通して聞く一人一人にその心の根本というか、そこにお話をさせていただいて、そして聞く方々もそこに心を持って聞いていただきたいと思っています。

私たち人間の根本的な思い、先ほどの発題のお話の中にもありましたように、幸せになりたいっていうことであります。じゃあ幸せって何なのか、世にあって挙げられる事柄は、思いどおりのままにいく毎日、そして問題困難がない毎日、そして関わるところにも平安、そして家族の守り、そういうことがあって初めて、幸せだなと思うものです。

一大欲求、皆さん御存じである食欲 性欲 睡眠欲、そのほかにも自己実現欲求、承認欲求、そして安全欲求、さまざまな欲望、願望を持って毎日の生活が、幸いなりって思いたいけれど、必死になってそれを求めていくんですけども、私たちの毎日の生活っていうのは本当に良いこと悪いことを秤にかければ、悪いことの方が多いゆえに、中々この日がいう幸せっていうものを手に取って味わうことができないんじゃないかって思うんです。思惑ないことや自分の思い通りにいくこと、それが幸せだとしたら、本当に必死になって、他人を押しのけてもその恵みか、その祝福を取っていきたい。それがままならないから様々な困難、問題が、争いが、様々なそういう混乱が生じているが、私たちの毎日、この世界といえるでしょう。でも果たして、幸せってそのようにして、自分が良いと思う、自

分が楽しい、自分が本当に良かったっていうことが幸せだとしたら、どうなんでしょうね。それを得ることのできる方のある人たちはいます。環境において、また、自分の成すべきところにおいてすべてが上手くいって幸いなりって、祝福だって思っている方々、そういう人々は確かにいらっしゃいますけども、そんなのじゃないんです。本当に良いことがあってもすぐにまた悪いことがあって、本当にそのように人生、あざなえる縄のごとしみたいな、そのようにして良いことも悪いことも繰り返し繰り返し起こってきて、悪いことが多いから幸せじゃないって思えてしまう。

けれども、ものごと上手くいったら幸せになれるんだっていったらそうではないでしょう。私たちがよく知っている大成功者たちや古の歴史の偉人たちだって、その証としてますよね。聖書にソロモンという、当時の世界のほとんどを握っているような王様がいったんです、「空の空。すべては空。」どんなに物事、どんなにうまくいっても、すべて欲しいものが手に入っても虚しいとぼったんです。アメリカのカーネギー鋼鋼王、彼は本当に巨富の、巨額の富を築き、名声も得たんだけど、しかし本当に虚しいと。本当にすべてがうまくいったって、本当の幸せってものは、得ることはできない、それが私たち人生の中で認めていることじゃないのかと思うんです。

じゃあ何が幸せなのか。ある少年と私が話しているとき、彼らの話から幸せっていうのは、それだよなって思うことがありました。それは、その少年は、両親を交通事故で亡くして、それから彼は非行に走りまして、ひどい生活を送っていたんですけども、彼はこったんです。「両親が生きていたときはうちは貧しく、何も欲しいものを買ってくれなかったし、兄弟が多いから。けれども、両親がいたとき、家族皆であああたこうだと喧嘩しながらも一緒だった時が幸せだったなって思うんです。」って言ったんです。それだと思うんです。人は本当に人としての温もりを味わったり優しさとか愛とか思いやりとか、喧嘩をしたりとか、そのような人との関わりの中で自分という存在が分かってきて、また人との関わりが、本当に自分というものを認めてくれる。もちろん関わる人たちが一方的な攻撃とかそういうことがあったって、でもそういう人たちばかりじゃない、そういう中で本当に私たちの心というものが揺さぶられたり引き付けられたり心が満たされて、そして人との関わりの中でこそ、幸せであると言わしめられると思うんです。

そこで、クリスチャンの私たちが信じているまことの神、イエス・キリストなんですけれども、このお方は科学でも証明されているんです。神は天と地を創られた、今見ている世界は神ゆえに、このお方によって、このお方にあって、このお方がこの世界を造り支え導いていらっしゃる。どんな宗教を信じていようが、人間はこの神によって造られて、そして神様は言うんです、「私が共にいる。恐れるな、心配するな、すべてを私が成し遂げる。」私たちが人間世界の中でどんなに友達がいない、また関わる人もいない、さげすまれる人もいる、そういうようなこの社会の底辺に生きていたとしても、神は見捨てないん

です。だからクリスマスの日に神が人となって来てくださる。私たち人間の罪、神なんて関係ない、そして自分が神だ、自分の思うように生きる、そういう罪の問題を全部、イエスという方が身代わりになって受けて、そして信じるならその罪を抹消にすると、さあ、私はあなたと共にいると宣言したんです。そして今も神は私たちの造り主ですから、先ほど祈祷ってお言葉を聞きましたけど、父なる神なんです、私たちの神は。まことの神は。その神が人となって、「私が神だ。」って宣言したのがイエス様なんですけども、その方が言うんです。「私がここにいる。恐れるな、たじろぐな。私はいつもあなたと共に、あなたを守り、支え、導く。」と。この恵みがあるから、私たちはどんなに大変な環境の中にいようと、またどんなに人間関係かみじめなものであったとしても、神様の愛があるのです。そして、「私が愛したようにあなた方も互いに愛し合いなさい。」という、この神様の教えがこの世界に浸透したら、戦争なんかなくなるはずなのです。

皆さん愛って何ですか。愛ってその人を好きです、大切にしますという、それも愛なんですけども、聖書には、こういうふうに書かれています。「人がその友のために命を捨てる、これ以上の愛はない。」、命を捨てるほどにその人に仕える。その人を支えてあげる。その人のために自分の労力、自分の時間、自分のすべてをその人のために使って、自分をささげおいて、これが本当の愛、神の愛なんです。この愛をもって私たちは隣人を愛しなさいって、愛さなきゃならないのです。私たちが祈っています教誨という働き、そして施設であって職員の皆さんの働きは、やはりこの愛に基づいており、本当に皆さんは素晴らしい人格者であって、そのような職員の方々を通して、被収容者の方々は心を潤わされて、心を癒されていくのだと思います。ですから私もクリスチャンとして牧師として、被収容者の方々と接していくとき、また講話をもって語らせていただくとき、真に心潤すことばを伝えたいと思っております。真の心の平安、心の満たしがなければソロモンやカーネギーが言うように、幸せにはなれないのです。

イエス様の弟子パウロが言いました。「私はどんな境遇の中でも危険、困難、問題、迫害、死があったとしても、私は満ち足りていることを学んでいる。心は満たされている。」と、どんな苦しみや悲しみや最低の状況であっても、我が心満ち足りているならば、それが幸せじゃないでしょうか。いわゆる心の満たしです。人を慕してはその優しき思いとか誠もりとか愛とか、自分に向けられる笑顔、それをもって人は癒されるんです。それが大切で、ある意味どんな困難、逆のりや痛みがあったとしても心は満たされていくんじゃないでしょうか。私たちの普通の生活のただ中で繰り広げられる神様の愛の働き、そしてその愛を知り、私たちも隣人を本当にその思いで愛していく。その思いで関わる方々、被収容者の方々に対しても愛と尊敬とすべてその人のために命まで捨てますって、それほどの思いで接していくことが大切です。結婚なんかそうですよね。私は結婚式をやるんですけども、愛っていうのは、好きだからこの人が結婚してくれるから私も結婚するというもの

ではないのです。自分の命を持ってその人に仕え、死んでもこの人を守るという、幸せにする、それが愛、キリストによってそれが示されてここに愛がありって世界に宣言されているのです。ですから私自身も救済師として、そして関わるその被収容者の方々、講話を通して聞かれる方々の心、魂を潤し、心満たしめるような神の愛をこれからも伝えていこうと思っております。

以にてございます。ありがとうございます。

総　　会

開 会 の 辞



大会長（北海道矯正管区教誨師連盟会長）　柏　川　法　潤

ただいまより、令和７年度北海道矯正管区教誨師連盟定期総会を開催します。

大会宣言文



千歳教誨師会　宮本正尊

私たちは、千歳市において、第61回北海道矯正管区教誨師研修大会を開催するに当たり、主題を「アップデートする教誨」とし、副題を「いのちの尊さに目覚める教誨」として、真摯に学びを求めることとしました。

本年6月から拘禁刑が開始され、各矯正施設においては、被収容者個々の特性に応じた再犯防止、社会復帰を目的としたプログラムが始まっています。それはまさに、被収容者と社会、人間の繋がりを再構築していこうとするものであり、そうした中で私たち教誨師が担う役割もより大きくなっていくのではないでしょうか。

人間関係の希薄化が叫ばれ、迷い、手探りで生きていく社会の中で、被収容者の過ちの裏にある苦しみや悲しみに触れ、人として生きなおす道を照らすこれからの宗教教誨の在り方が今問われています。

私たちは、今回の研修大会を通してお互いの情報や経験を共有し、深めあう場を共にすることができました。

本大会は、私たち教誨師が、被収容者の中にある光を信じ、関わり続けていく教誨師の使命を再確認し、今回の学びを機縁として、今後より一層自らの研さんに努めていくことをここに宣言いたします。

次期大会開催地代表挨拶



月形刑務所教誨師会会長　**永　岡　龍　乗**

月形刑務所の教誨師会会長の永岡でございます。昨日今日と千歳教誨師会の皆様、そして施設の職員の皆様、大変お世話になりました。私自身２回参加して、大変来て良かったなと感動しております。この感動を胸に来年の大会、これからしっかり準備していかなければならないなと思っているところであります。一応来年は岩見沢市でホテルサンプラザを会場として１１月４日、５日を予定としております。

大乗仏典の結びは、終始一貫、私に皆さんとの願いに置かれていくと私は思っております。般若心経の最後の部分でも、「羯諦羯諦波羅羯諦、波羅僧羯諦、菩提薩婆訶」、これは、亡くなりました薬師寺の管長、高田好胤氏は彼岸に向けて、行こう行こうとみんなで行こうと訳されました。私はキリスト教のことはよく分かりませんが、間違っていたらごめんなさい、伝道するに当たっては一人で行きなさいという言葉があると聞いております。何がおいたいのかと言いますと、来年の大会には一人で来ないで二人で、共に、皆で行こう行こうと、皆で大会に参加しようと、お誘いあわせの上、ぜひとも参加していただきたいなと思っております。

皆様方をまた会えることを楽しみにお待ちしております。よろしくお願いいたします。

閉　会　の　辞



大会委員長（千歳教諭師会会長）　阿　部　正　信

これをもちまして、第６１回北海道矯正管区教諭職研修大会の日程がすべて終了いたしました。閉会をいたします。

ありがとうございました。

来賓

（敬称略・順不同）

公益財団法人矯正協会会長	藤本哲也
札幌市長	横山隆一
北海少年院篤志面接委員会会長	大郷栄治
紫明女子学院篤志面接委員会会長	宮本正尊
北海少年院・紫明女子学院篤志面接委員会後援会会長	茅津俊爾
法務省矯正局長	川笠和彦
北海道矯正管区長	塩島かおり
北海道矯正管区少年矯正部長	曽和浩
札幌刑務所長	遊佐篤史
旭川刑務所長	窪田哲也
帯広刑務所長	笹森哲
帯広刑務所釧路刑務支所長	石山岳史
網走刑務所長	中村寛之
月形刑務所長	原田学
函館少年刑務所長	渡邊真也
北海少年院長	平原政直
紫明女子学院長	及川英樹
札幌少年鑑別所長	古川輝

管区職員名簿

北海道矯正管区成人矯正第二課長	安藤陽一郎
北海道矯正管区少年矯正第一課長	金野拓郎
北海道矯正管区成人矯正第二課矯正専門官	奥下真啓
北海道矯正管区成人矯正第一課事務官	中梶賢一
北海道矯正管区成人矯正第二課事務官	川端啓介
北海道矯正管区少年矯正第一課研修日	菅原未来

施設職員名簿

札幌刑務所統括矯正処遇官	石垣秀樹
札幌刑務支所統括矯正処遇官	菊地祐司
札幌刑務支所主任矯正処遇官	森敦子
旭川刑務所統括矯正処遇官	細砂祐介
旭川刑務所教育専門官	今井貴裕
帯広刑務所首席矯正処遇官	水上広管
帯広刑務所看守	飯野靖知
網走刑務支所主任矯正処遇官	境澤円平
網走刑務所統括矯正処遇官	鳩澤太一郎
月形刑務所矯正処遇部長	向井康修
月形刑務所統括矯正処遇官	栗山友則
月形刑務所看守部長	松井貴之
函館少年刑務所主任矯正処遇官	佐々木徹也
北海少年院首席専門官	松岡千恵
北海少年院統括専門官	門田元勝
北海少年院専門官	土屋希世子
紫明女子学院首席専門官	岸田佳子
紫明女子学院専門官	市川佳史輿

大会役員

公益財団法人全国教職員連盟顧問	吉川孝介
大会長	柏川法潤
大会委員長	阿部正信
北海道矯正管区教職員連盟事務局長	天野広輝

大会実行委員

阿部正信	宮本正尊
押見正宏	玉井昭導
高橋太志	橘宝行
秋山有洋	木村恵一

教誨師名簿

（）は委嘱者

〈札幌刑務所教誨師会〉

白山 敏秀	（真宗大谷派）	草間 孝廣	（神社本庁）
高橋 宗憲	（浄土宗）	谷 照幸	（真言宗智山派）
北 秀雄	（真宗大谷派）	（）高垣 晶敬	（曹洞宗）
須磨 興人	（真宗大谷派）	坂田 智亮	（真宗大谷派）
出倉 恵隆	（浄土真宗本願寺派）	松本 昇陽	（浄土真宗本願寺派）
天野 広輝	（浄土真宗本願寺派）	日比 健士	（曹洞宗）
奥村 尚人	（天理教）		

〈旭川刑務所教誨師会〉

柏川 法潤	（浄土真宗本願寺派）	打本 厚史	（浄土真宗本願寺派）
阿部 眞盛	（高野山真言宗）	（）伊藤 孝順	（真宗大谷派）

〈帯広刑務所教誨師会〉

織田 秀道	（曹洞宗）	（）八重柏 新治	（天理教）

〈釧路刑務支所教誨師会〉

菊池 吉郎	（神社本庁）	山形 浄之	（釧路キリスト福音館）
坂下 宣幸	（天理教）	菅原 顕史	（浄土真宗本願寺派）

〈網走刑務所教誨師会〉

瓶原	聡尚（基督兄弟団）	飯野	正行（日本聖公会）
倉内	章次（天理教）	白島	浄晴（神社本庁）

〈月形刑務所教誨師会〉

永岡	龍乗（浄土真宗本願寺派）	山内	有信（真言宗山岳寺）
渡辺	俊和（浄土真宗本願寺派）	○宰井	真治郎（天理教）
○永谷	亮（日本聖公会）	背上	泰啓（神主宗）
松井	新世（日本聖公会）	磯岡	文衛（天理教）
相河	朋昭（真宗大谷派）		

〈函館少年刑務所教誨師会〉

荒木	力弥（神社本庁）	水島	弘司（天理教）
内田	誠司（天理教）	小野	一良（神社本庁）

〈千歳教誨師会〉

阿部	正信（真宗大谷派）	宮本	正尊（真宗大谷派）
玉井	昭導（真宗大谷派）	高橋	太忠（天理教）
橘	宝智（高野山真言宗）	秋山	有洋（高野山真言宗）
○木村	恵一（基督プテス、宣教団）		

物　故　者

（敬称略）

≪教誨師関係≫

札幌刑務所教誨師　故　藤田文雄　享年７５歳

（令和６年８月３０日逝去）

旭川刑務所教誨師　故　大江紹文　享年７８歳

（令和７年３月２２日逝去）

令和８年２月16日　印刷
令和８年３月　日　発行

第61回
北海道矯正管区教誨師研修大会記録

編集・発行　第61回北海道矯正管区教誨師研修大会事務局
〒046-0016
北海道千歳市大和４丁目746－10
北海少年院・緑陵女子学院
千歳教誨師会事務局
電話　0123－23　3147